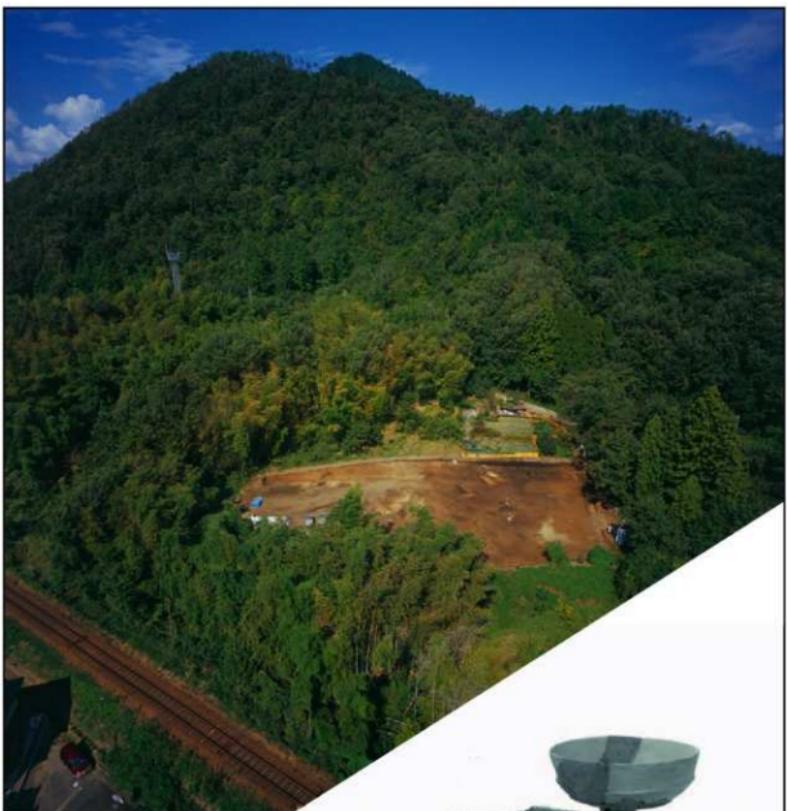


はち まん まえ  
八幡前遺跡・八幡前2号古墳

2006

財団法人岐阜県教育文化財団



## 序

古くから和紙の生産地として知られる美濃市は、岐阜県のほぼ中央に位置し、水清冽な長良川が市内を流れる豊かな自然と長い歴史に恵まれた町です。ここは古くから文化の開けた地域で、市内及び周辺の至る所に多くの名所・遺跡を残し、わたしたちの祖先の暮らしの足跡を21世紀の現代に伝えてくれています。

このたび、県道富加美濃線の道路改良により、事業の範囲にかかる埋蔵文化財の記録保存を図るため、市域の東南端に位置する松森地内の「八幡前遺跡」の発掘調査を実施しました。今回の調査では、横穴式石室を持つ八幡前2号古墳を新たに発見し、緩斜面上で土坑群などの遺構を検出しました。また、石器や土器などの遺物も出土し、この地域の様相を知るうえで大変貴重な資料となりました。この報告書はその成果をまとめたものです。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地域の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、美濃市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

財團法人岐阜県教育文化財団

理事長 日比 治男

## 例言

- 1 本書は、岐阜県美濃市松森に所在する八幡前遺跡・八幡前2号古墳（岐阜県遺跡番号21207-06846、21207-10344）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は県道富加美濃線道路改良に伴うもので、岐阜県基盤整備部美濃建設事務所から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財團法人岐阜県教育文化財團文化財保護センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成16年度に、整理作業は17年度に実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆は、第2章第1節は藤岡比呂志が、それ以外は三浦徹大が行った。また、編集は三浦徹大・山内裕行が行った。
- 6 発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、遺物の洗浄・注記、地形測量・空中写真測量などの業務は株式会社イビソクに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）  
伊藤利巳 清山健 高木宏和 長屋幸二 古田憲司 三島美奈子  
美濃市教育委員会
- 9 本文中の方位は、世界測地系第Ⅷ系の座標北を示している。
- 10 土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄2004『新版 標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 11 調査記録及び出土遺物は財團法人岐阜県教育文化財團文化財保護センターが保管している。

## 目 次

序

例言

第1章 調査の経緯.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過と方法.....	3
第2章 遺跡の位置と環境.....	6
第1節 地理的環境.....	6
第2節 歴史的環境.....	6
第3章 調査の結果.....	9
第1節 基本層序と遺構・遺物の概要.....	9
第2節 八幡前2号古墳.....	15
1 概要	
2 墳丘	
3 内部主体	
4 周溝	
5 付属施設（排水溝）	
6 遺物	
第3節 III層上面の遺構と遺物.....	20
1 遺構	
2 遺物	
第4節 IVa層上面の遺構と遺物.....	24
1 遺構	
2 遺物	
第5節 遺物包含層出土の遺物.....	47
第4章 まとめ.....	64

参考文献

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	調査前地形測量図・試掘坑位置図 ・本発掘調査範囲図	2
第3図	調査区画・グリッド設定図	3
第4図	周辺の古墳分布図	7
第5図	南壁土層図	10
第6図	西壁土層図	11
第7図	北壁土層図	12
第8図	遺構全体図（Ⅲ層上面）	13~14
第9図	八幡前 2 号古墳実測図（1）	16
第10図	八幡前 2 号古墳実測図（2）	17
第11図	古墳区割り図	19
第12図	八幡前 2 号古墳出土遺物	19
第13図	SK 1 ~ SK 5	22
第14図	SK 6 ~ SK10・SX 1・SX 2	23
第15図	遺構全体図（Ⅳa層上面）	25~26
第16図	SK19・SK20	28
第17図	SK50・SK52・SK54	29
第18図	SK57・SK58・SK93・SK176~SK181	30
第19図	その他の土坑（1）	31
第20図	その他の土坑（2）	32
第21図	その他の土坑（3）	33
第22図	その他の土坑（4）	34
第23図	その他の土坑（5）	35
第24図	その他の土坑（6）	36
第25図	その他の土坑（7）	37
第26図	その他の土坑（8）	38
第27図	その他の土坑（9）	39
第28図	その他の土坑（10）	40
第29図	遺構内出土遺物（1）	43
第30図	遺構内出土遺物（2）	44
第31図	遺構内出土遺物（3）	45
第32図	遺構内出土遺物（4）	46
第33図	包含層出土遺物（1）	50
第34図	包含層出土遺物（2）	51
第35図	包含層出土遺物（3）	52
第36図	包含層出土遺物（4）	53
第37図	包含層出土遺物（5）	54
第38図	包含層出土遺物（6）	55
第39図	須恵器片出土状況図	65
第40図	石器出土状況図（1）	66
第41図	石器出土状況図（2）	66
第42図	石器出土状況図（3）	67

## 表目次

第1表	周辺の古墳一覧	7
第2表	松森地区の古墳の概況	8
第3表	八幡前 2 号古墳の法量一覧	18
第4表	遺構一覧表（1）	56
第5表	遺構一覧表（2）	57
第6表	遺構一覧表（3）	58
第7表	遺構一覧表（4）	59
第8表	遺物観察表（土器1）	60
第9表	遺物観察表（土器2）	61
第10表	遺物観察表（石器1）	62
第11表	遺物観察表（石器2）	63
第12表	遺物観察表（鉄製品）	63
第13表	石器出土表	63
第14表	八幡前 2 号古墳と 塚穴古墳群の法量一覧	65

## 写真図版目次

図版1	遺跡全景（合成写真）
図版2	遺跡遠景・調査前風景
図版3	遺跡全景
図版4	八幡前 2 号古墳（1）
図版5	八幡前 2 号古墳（2）
図版6	Ⅳa層上面の遺構
図版7	八幡前 2 号古墳の出土遺物
八幡前遺跡の遺構内出土遺物	
図版8	八幡前遺跡の遺構内出土遺物
図版9	八幡前遺跡の遺構内出土遺物 ・包含層出土遺物
図版10	八幡前遺跡の包含層出土遺物
図版11	八幡前遺跡の包含層出土遺物
図版12	八幡前遺跡の包含層出土遺物

第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

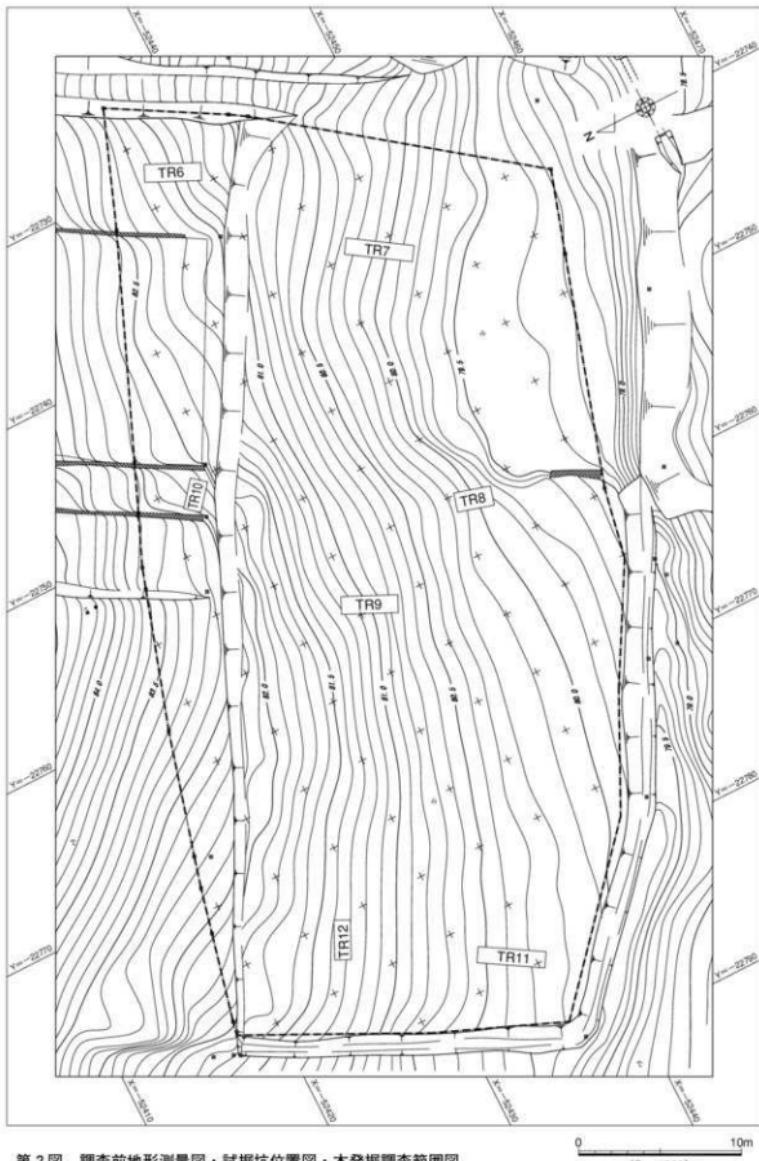
八幡前遺跡は、岐阜県美濃市松森八幡前に所在する。関市との境をなす美濃市東南端で、当遺跡は松鞍山麓の南西部の緩斜面に位置する。当遺跡が発掘調査の対象となったのは当地域で進められている県道富加美濃線道路改良によるものである。この事業の範囲に当遺跡が含まれていたため岐阜県基盤整備部美濃建設事務所から岐阜県教育委員会が委託を受け、財團法人岐阜県教育文化財团文化財保護センターが事前に発掘調査を行うこととなった。

本発掘調査に先だって平成15年11月に、岐阜県基盤整備部美濃建設事務所、岐阜県教育委員会、美濃市教育委員会、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターにより、発掘調査について現地協議を行い、平成15年12月に岐阜県教育委員会が試掘確認調査を実施した。試掘確認調査では土坑などの遺構、縄文時代晚期の土器片と石器類などの遺物の出土が確認された。本発掘調査は、この試掘確認調査結果に基づき、遺構が検出されると判断された1600m<sup>2</sup>を調査範囲として平成16年度に実施することとなった。

なお、発掘調査中に横穴式石室をもつ古墳を1基発見した。調査終了後にこの古墳は、八幡前2号古墳（岐阜県遺跡番号21207-10344）として登録された。



第1図 八幡前遺跡位置図 (S=1/50,000、国土地理院発行1:50,000「美濃」)



第2図 調査前地形測量図・試掘坑位置図・本発掘調査範囲図

0 10m  
(S 1/300)

## 第2節 調査の経過と方法

## 1 調査の経過と方法

発掘調査は、排土置場・重機進入路・未買収地（調査区北側）の都合から大きく3区に分けて実施した。最初に取りかかったのは調査区西側（調査区東側を排土置場とした）である。西側の調査終了後は排土を半転し、東側の調査を開始し、その進行途中で調査区北側の買収が完了したため、北側と東側を合わせて調査した。

調査前の土地利用は調査区北側は土地が1.3mほど高くなってしまっており、畑地となっていた。調査区西～東側についても畑地（等間隔に柿が植えられていた）として利用されていたが、畑地の開墾のために斜面が切り取られたらしく、北側より一段低くなっていた。調査区は北西側が高く、南東側に向かうにつれ低くなっている地形で、特に調査区の東側・南側では掘削により湧水が発生し、雨後は数日間は湧水が止まらず調査に支障をきたした。

表土除去後、方位を基準にして4m×4mのグリッドを設定した。グリッドの名称は北から南(斜面上方～下方)に向かって1～11行、西から東に向かってA～P列とし調査区画の呼称は北西角の杭番号を用いた。

基本層序は、試掘確認調査の結果からⅠ層～Ⅳ層を設定し、Ⅰ層を耕作土、Ⅱ層を古墳時代の遺物包含層、Ⅲ層を縄文～弥生時代の遺物包含層と認識した。また、Ⅲ層上面で古墳時代の遺構面を、Ⅳ層上面で縄文～弥生時代の遺構面をそれぞれ検出した。発掘調査ではⅠ層を重機により除去し、Ⅱ～Ⅳ層は人力で掘削した。なお、包含層及び遺構内から出土した遺物は、出土位置をすべてトータルステーションにより測定して取り上げた。



第3図 調査区画・グリッド設定図

なお、発掘調査の経過は以下のとおりである。

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 第1週（5.6～5.7）      | 地形測量、進入路の伐採。  |
| 第2週（5.10～5.14）    | 現場事務所設置、調査区内の柿の木等を伐採、重機掘削。  |
| 第3週（5.17～5.21）    | 人力による包含層掘削及び遺構検出作業を実施（調査区西側・Ⅲ層上面）。                                  |
| 第4週（5.24～5.28）    | 遺構検出～遺構掘削作業・実測作業（調査区西側・Ⅲ層上面）。                                       |
| 第5週（5.31～6.3）     | 包含層掘削及び遺構検出作業を実施（調査区西側・Ⅳ層上面）。                                       |
| 第6週（6.7～6.11）     | 引き続き遺構検出作業を実施（調査区西側・Ⅳ層上面）。場所により搅乱が激しくやや深く掘り下げ遺構を検出。                 |
| 第7週（6.14～6.18）    | 遺構掘削作業・実測（調査区西側・Ⅳ層上面）。  |
| 第8週（6.21～6.25）    | 遺構検出作業・実測（調査区西側の南側・Ⅳ層上面）。   |
| 第9週（6.28～7.2）     | 遺構掘削作業・実測（調査区西側の南側・Ⅳ層上面）。   |
| 第10週（7.5～7.9）     | 調査区西側の作業を終了し空撮を実施。<br>IVa層より下層の遺構遺物確認のためのトレンチ掘削。                    |
| 第11週（7.12～7.16）   | 調査区東側の重機掘削を開始。古墳を検出。<br>包含層掘削及び遺構検出作業を開始。                           |
| 第12週（7.20～7.23）   | 古墳石室内堆積土の掘削。周溝の検出作業。  |
| 第13週（7.26～7.30）   | 古墳に関わるトレンチ掘削。古墳床面の掘削。   |
| 第14週（8.2～8.6）     | 古墳の断ち割り等。古墳に付属する排水溝を検出。<br>調査区東側のⅢ層上面では古墳のほかに遺構は確認できず。              |
| 第15週（8.16～8.20）   | 遺構検出作業・実測（調査区東側・Ⅳ層上面）。  |
| 第16週（8.23～8.27）   | 遺構検出作業・実測（調査区東側・Ⅳ層上面）。<br>古墳の墓坑・排水溝・周溝を掘削。                          |
| 第17週（8.30～9.3）    | 調査区北側の一段高くなった畠部分のⅠ・Ⅱ層について重機掘削を開始。                                   |
| 第18週（9.6～9.10）    | 遺構検出作業・実測（調査区北側・Ⅲ層上面）。  |
| 第19週（9.13～9.17）   | 遺構掘削作業・実測（調査区北側・Ⅲ層上面）。  |
| 第20週（9.21～9.24）   | 遺構検出作業・実測（調査区北側・Ⅳ層上面）。  |
| 第21週（9.27～9.30）   | 遺構掘削作業・実測（調査区北側・Ⅳ層上面）。  |
| 第22週（10.4～10.8）   | 遺構掘削作業・実測（調査区北側～東側・Ⅳ層上面）。<br>調査区北側～東側の掘削作業を終了し空撮を実施。                |
| 第23週（10.12～10.15） | 遺構実測作業（調査区北側～東側・Ⅳ層上面）。<br>IVa層より下層の遺構遺物確認のためのトレンチ掘削。<br>調査区の埋め戻し作業。 |
| 第24週（10.18～10.22） | 現場撤収準備、調査用具などの搬出。<br>現場事務所撤収。                                       |
| 第25週（10.25～10.28） | 調査区を事業者へ引き渡し。   |



作業風景（掘削）



作業風景（実測）

## 2 遺跡・遺物の公開・広報

現地説明会は調査地点の東西の半軒などで遺構の公開が難しいことから実施しなかったが、見学者については、受け入れ可能の旨を現地の看板に明示し、隨時受け入れた。見学者の総数は66名である。また、平成16年8月21日には岐阜県立加納高校・岐山高校郷土研究クラブによる発掘体験（生徒は21名が参加）を実施した。平成17年11月15日～12月18日に岐阜県博物館にて開催した「発掘速報展 発掘された飛騨・美濃の歴史」においては主要な遺物の展示と解説を行った。

## 3 遺物・調査記録の整理作業

平成16～17年度に出土遺物・調査記録の整理作業を行った。作業の流れは次のとおりである。

遺物の洗浄→遺物の注記→土器の接合・補強・補修→遺物の実測・観察表の作成→

遺構・遺物実測図の製図→遺物の写真撮影→図版作成→遺物・調査記録の収納・保管

なお、本報告書本文の執筆・編集は、上記の作業と並行して行った。また、鉄鏃についても保存処理を実施した。

## 4 発掘調査及び整理作業の体制

	平成16年度(発掘調査・整理)	平成17年度(整理・報告書作成)
理事長	日比治男	日比治男
副理事長兼事務局長	高橋宏之	高橋宏之
副理事長	平光明彦	平光明彦
常務理事兼センター所長	福田安昭	田口久之
経営課長	川瀬崇敏	川瀬崇敏
調査部長	川部誠	川部誠
担当調査課長	大熊厚志	近藤聰
担当調査員	三浦徹大	山内裕行
整理作業従事者	小木曾美智 菅原祐子	酒衛成功 堀三恵子 山田弘子

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

八幡前遺跡は、美濃市街地の南方約2kmに位置する。今回の調査区は、松鞍山（標高316.3m）の南南西の裾に広がる標高約80mの緩やかな斜面上にある。

遺跡周辺において、平地若しくは緩斜面が確認できるのは以下の3箇所である。一に、調査区の西方数100m～約2kmにかけて南北に広がる平地。二に、調査区のすぐ南に幅約200m、長さ約1kmで東西に細長く広がる平地。三に、調査区内のように山地の裾部にある緩やかな斜面である。一は、長良川によってつくられた扇状地性堆積物よりなる平地。二は、東北東から遺跡周辺にのびる支流の扇状地性堆積物よりなる平地。三は、山地の裾部に分布する崩積性堆積物よりなる緩斜面である。一と二には、周知の遺跡がいくつか見られる。

この一帯の地質は、美濃帯堆積岩でできており、チャート、砂岩、泥岩からなる基盤の岩体を河川による浸食、堆積及び、山地からの崩積により地形を形づくっている。

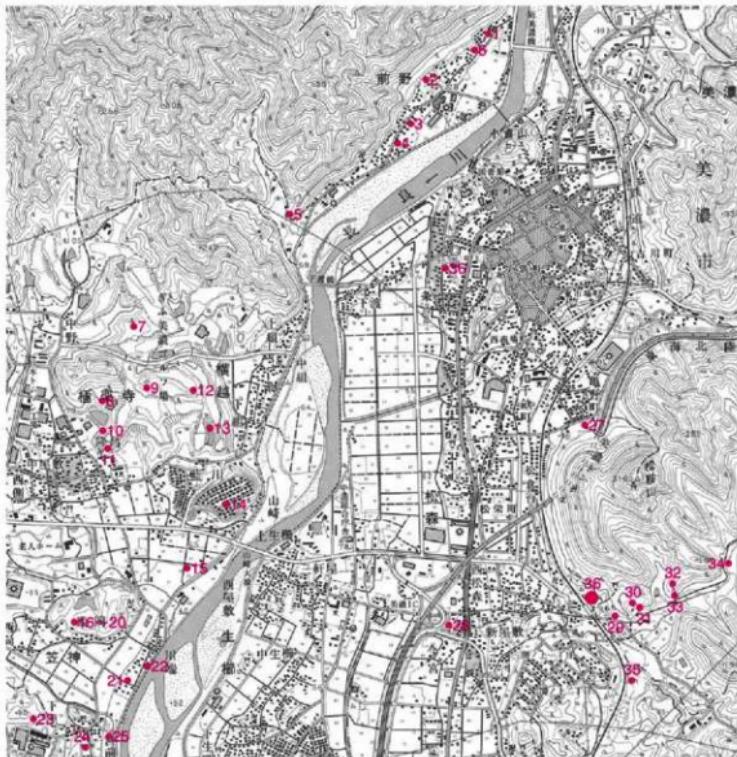
松鞍山より南方では、松鞍山の頂部のような250～320mほどのやや急峻な頂をつくる山並みが北西～南東方向へ続く。その南側には現在は住宅地やゴルフ場になっているが、150m以下の頂をもつ山並みが同じく北西～南東方向へ続く。これは、松鞍山の頂部のようなやや急峻な頂をつくる山並みはチャートでできており、その南に存在するやや低い山並みは砂岩でできており、チャートと砂岩の浸食の違いによってそのような地形がつくられている。

調査区の地山（IVc層）は、径が数cm以下の角礫を多く含む堆積物である。角礫は砂岩が多く、続いてチャートからなり、上流部の岩質を反映している。松鞍山一帯は前述したようにチャートでできているが、山地の裾部には砂岩が分布している。そのため、調査区の地山にはチャートのみではなく、砂岩の角礫が存在する。砂岩はチャートと比べて浸食されやすいため、やや緩やかとなり、砂岩中に小さな谷部をつくっていると考えられる。チャート中には谷部がなく、砂岩が分布するところから小さな谷が見られるところが周囲に数箇所ある。

### 第2節 歴史的環境

美濃市内で現在まで確認されている遺跡の殆どは長良川をはじめ、板取・余取・渡会・赤谷川等の中小河川の流域に分布し、弥生時代以降の遺跡は水稻農業との関連から、生産に適した市域南部の平地部に集中している。

八幡前遺跡は、松鞍山（標高316.3m）麓の南西部に位置し、その南麓を西流する赤谷川に沿って延びる狭長な洞にある。松鞍山の山頂には、養老3年（719）に僧泰澄が創建したと伝わる松鞍神社がある。『美濃国神明帳』にみえる武儀郡の「從五位下 松倉明神」はこの松鞍神社に比定されている。ここは、古くは千代社と呼ばれており、松森という地名も千代社にちなんで千代の松森という意味から



第4図 周辺の古墳分布図 (S=1/25,000、国土地理院1:25,000「美濃」)

第1表 周辺の古墳一覧

1	前野 1号墳	横穴式石室、削平	21	古村古墳	径9mの円墳、削平、須恵器
2	前野 2号墳	削平、須恵器	22	青木塚古墳	削平
3	前野 3号墳	横穴式石室、削平、須恵器	23	神山洞古墳	横穴式石室、削平、須恵器、土師器、金環、直刀、須恵器
4	前野 4号墳	横穴式石室、削平、須恵器	24	御治原洞古墳	横穴式石室
5	前野 5号墳	径16mの円墳、横穴式石室	25	宮前古墳	減失、直刀、須恵器
6	前野 6号墳	横穴式石室、削平、須恵器	26	上条小山古墳	減失、須恵器
7	日置古墳	全長約80mの前方後方墳	27	丸野古墳	円墳、削平、須恵器
8	平曾洞 1号墳	径10mの円墳、横穴式石室	28	下条上古墳	横穴式石室、削平、須恵器、鉄劍、玉類
9	平曾洞 2号墳		29	八幡前古墳	
10	平曾前古墳群		30	寺前 1号墳	減失
11	大石洞古墳	横穴式石室、半壙	31	寺前 2号墳	減失
12	綾谷寺山古墳	全長30mの前方後方墳、溝、方墻複数基、勾玉ほか	32	坂穴 1号墳	径16mの円墳、横穴式石室、須恵器、良質小刀、鉄劍ほか
13	應祥寺古墳	横穴式石室	33	坂穴 2号墳	径16mの円墳、横穴式石室、須恵器、土師器、須恵器ほか
14	愛川古墳	横穴式石室、減失	34	坂穴 3号墳	削平、須恵器、玉類
15	逍光寺塚古墳	削平、須恵器、鉄劍、馬銜、勾玉、金環	35	向中野古墳	地盤は開市
16-20	鶴丘 1~5号墳	横穴式石室（1号墳）	36	八幡前 2号古墳	径16mの円墳、横穴式石室、土師器、鉄劍ほか
					本報告

付けられた。この松森山は女人禁制の神聖な山で、乞食の入るのも許されなかつたといふ。丘陵頂部には松嶽神社が祀られており、当遺跡内にこの松嶽神社への参道がある。

当遺跡の東に隣接する向中野遺跡では旧石器時代の石刃状剥片、石鎌・石匙・石錐・石錐・石錐・打製石斧などの縄文時代の石器類、縄文土器片などが出土し、弥生時代初頭の水神平式と、同じく後期の高蔵式の土器片が採集されている。当遺跡の西側に隣接する赤谷川に沿つた洞の開口部には古代の集落跡である東大門遺跡があり、7世紀後葉から8世紀前葉に属すると考えられる土師器甕や須恵器（杯身）などが出土している。

現在、美濃市内では第4図及び第1表に示した古墳が確認されている。全長20.5mの前方後方形墳丘墓で、主体部から流雲文方格規矩四神鏡、小型の方製鏡、勾玉などが出土して話題となつた観音寺山古墳、全長約80mの前方後方墳の日室古墳などが有名であるが、大半は後期古墳に属する円墳と考えられている。それらの古墳の分布は市域南部、その中でも長良川右岸の前野地区、横越・極楽寺・笠神の藍見地区、市域東南端の松森地区に特に集中しているが、既に削平され、当時の墳形をとどめていない古墳や現在までに消滅してしまつた古墳も多い。

今回、発見した八幡前2号古墳の周辺は、赤谷川沿いの丘陵地に古墳が集中する古墳群である。これらの松森地区の古墳の詳細は第2表に示したとおりである。第2表には記載していないが、立地環境から閖門市の中野古墳はこの古墳群に含めることができる。また、表中に示した下巾上古墳は、松鞍山麓の丘陵部から西に離れ、河岸段丘上に位置しており、ほかの古墳と立地環境が異なる。

第2表 松森地区的古墳の概況

名 称	場 所	概 况	出 土 品	そ の 他
下巾上古墳 (円墳)	松森字下巾上 第4図-28	義道部の長さ9尺(2.7m)、玄室の長さ19尺(6m)。山石を使用した横穴式石室と思われる。	須恵器・鉄鎌・玉類 現在の所在は不明。	昭和初期に発掘され、現在は墳丘ともに完全に消滅しているが、石室・出土品については、故小川栄一氏の調査資料が残る。
寺洞1号墳	松森寺洞 第4図-30	形態その他一切が不明。(岐阜県遺跡地図)では共に円墳としている。	藏骨器様の土器が出土したと伝わる。	地元で握ったと伝えられる。現在は探査場となり、旧状が著しく変更されているため、位置は確認できない。
寺洞2号墳 (円墳)	松森寺洞 第4図-31			
塚穴1号墳 (円墳)	松森字塚穴 第4図-32	墳丘径12m、高さ2.5m、全長8m 前後の両袖式の横穴式石室、玄室の長さ4.15~4.2m、幅1.0~1.45m、高さ2.2m前後。	鉄製小刀1、精尻1、鉄錐4、 刀子1、須恵器(环壹2、無蓋高环7、 鍔2、短頸壹3、長頸壹1、提瓶1、平瓶1)	両袖式で漢道幅が玄室幅より狭くしかも袖部が義道部から独立して石室の内側に突出しない畿内系の横穴式石室をもつ。
塚穴2号墳 (円墳)	松森字塚穴 第4図-33	墳丘径12m、高さ3m、全長7.3m の無袖式の横穴式石室、玄室の長さ3.3~3.52m、幅1.4~1.7m、 高さ1.9m前後。	鉄製鐃1、鉄錐1、砥石1、 須恵器(环身2、無蓋高环3、 台付輪2、台付長頸壹1、提 瓶1、平瓶1、壹1)、土師器 壹1	『美濃市史』執筆の際の分布調査 により確認。
塚穴3号墳 (円墳)	松森字塚ヶ平 第4図-34	横穴式石室。	メノウ製の勾玉2、硬玉製管 玉3、切子玉2、須恵器(短 頸壹1、杯壹1、杯身2)	『美濃市史』には塚穴1号墳とし て紹介されている。既に消滅して いる。
八幡前古墳 (円墳)	松森字八幡前 第4図-29	墳丘径12m、高さ2.5m、現状は その3分の1が削り取られてい る。内部構造は不明。	出土品は伝えられていない。	昭和10年(1935)頃に地元で握 ったと伝えられる。
八幡前2号 古墳 (円墳)	松森字八幡前 第4図-36	墳丘径約14mの無袖式の横穴式 石室。石室の長さ約2.7m、幅約 0.9~1.4m。	土師器鉢1、 鉄鎌1、須恵器1	本報告書 石室の基底石のみ残存。

## 第3章 調査の結果

### 第1節 基本層序と遺構・遺物の概要

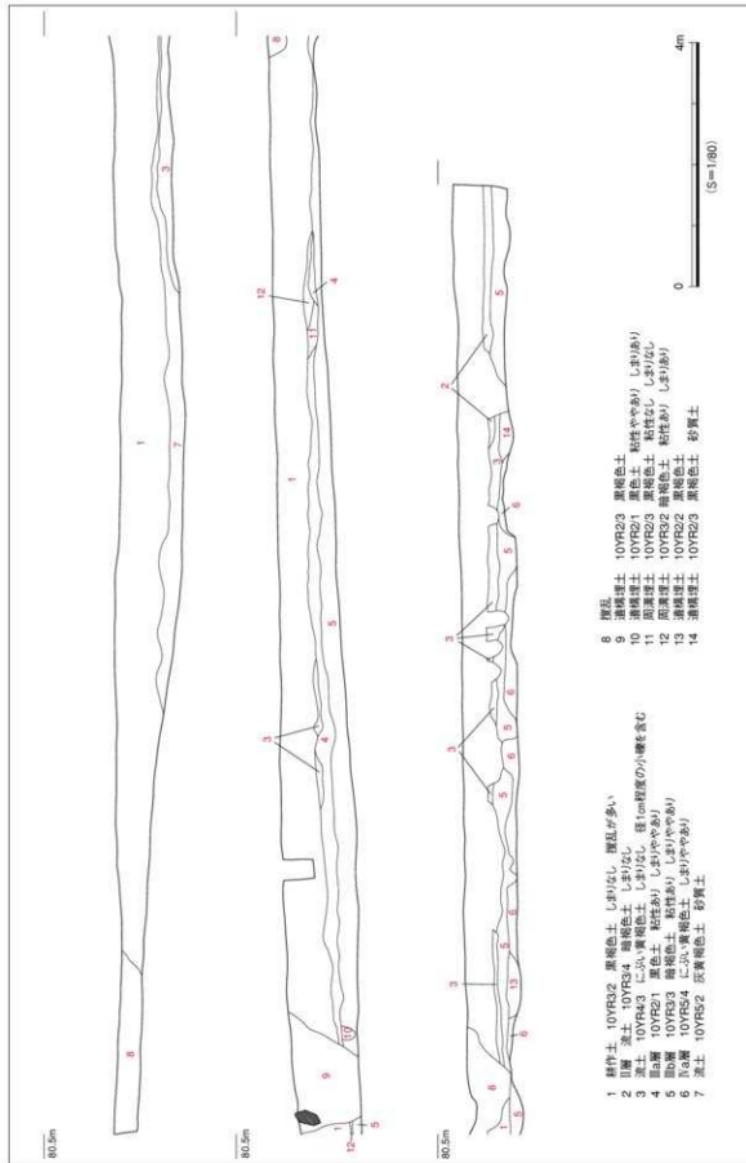
八幡前遺跡は、松鞍山麓の南西部の緩斜面に位置する。北西が高く、南東が低い地形となる。東部には谷が走り、水が流れやすくなっている。そのため、場所によって堆積の状況が異なり、層位に異同があるが基本的には下記のような層で構成されている。

- I 層** 黒褐色土。直前まで利用された耕作土であり、畑地耕作による深い搅乱が隨所で見られる。
- II 層** 黄褐色土。流水層であり、砂質で小石を含む。斜面上方（北東）から流出した土砂が堆積したもので遺物を多く包含している。
- IIIa層** 黒色土。堆積土で、粘性があり、ややしまりがある。調査区の中央部分に広がっている。この層の上面で古墳時代の遺構を検出した。
- IIIb層** 暗褐色土。堆積土で、粘性があり、ややしまりがある。調査区の中央部分に広がっている。この層の上面でも古墳時代の遺構を検出した。
- IIIc層** 黒色土。粘性があり、しまりがある。調査区北東の一部分で確認したのみである。
- IVa層** 暗褐色土。粘性があり、ややしまりがある。この層の上面で縄文時代晩期～弥生時代前中期の遺構を検出した。
- IVb層** 褐色土。明褐色粘質土。地山であり、遺物を含まない。粘性があり、しまりがある。
- IVc層** 明褐色土。礫（チャート）を多く含む。地山である。

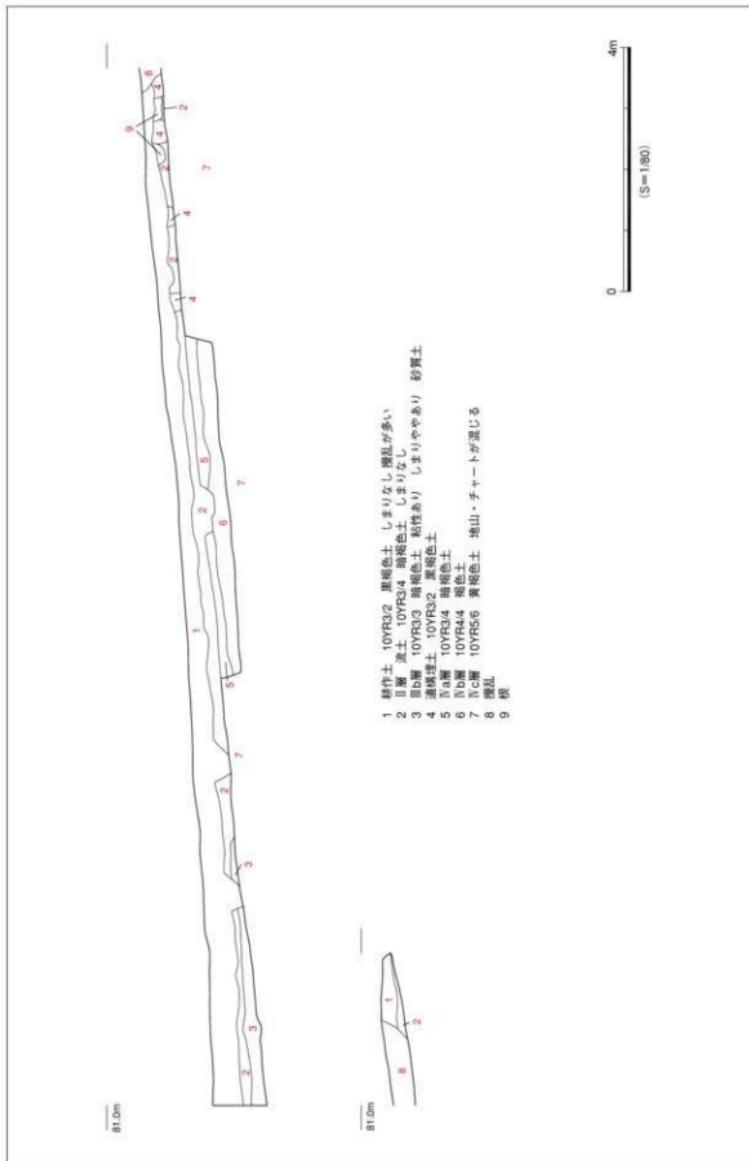
試掘確認調査により遺構を検出したのは、IIIa層上面とIVa層上面の2面である。本発掘調査においては新たにトレレンチを設置せず、前年度の試掘トレレンチ（TR 6～TR12）で得た成果を基準に見当をつけて掘削した。試掘確認調査時には分からなかったが、畑地耕作時の搅乱が当初の予想以上に深く激しい箇所も多く、本来はIVa層上面で検出すべき遺構をIVb層近くまで掘り下げて検出した箇所もある。検出した遺構はIIIa層上面において古墳1基、土坑10基、その他5基、IIIb層上面において焼土を伴う土坑2基、IVa層上面において土坑171基を確認した。検出した土坑の多くは、性格不明である。これらの遺構には遺構記号を、HA 2～八幡前2号古墳、SK-土坑、SX-その他の遺構、というように割り当てた。また、各遺構の法量は第4～7表に示してある。

遺物は1,498点出土した。内訳は、土器片1,215点（縄文・弥生土器1,065点、土師器56点、須恵器22点、山茶碗5点、中近世陶器等67点）、石器類267点、鉄製品類7点、その他9点である。

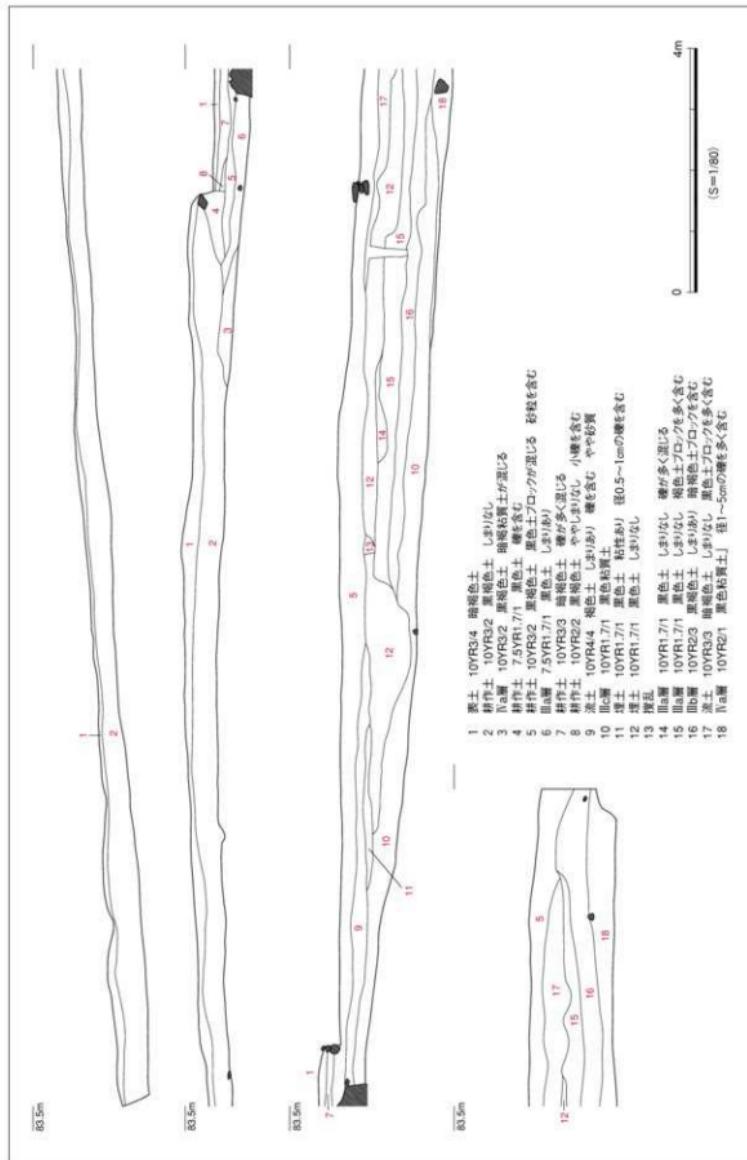
発掘調査の過程において新発見となった八幡前2号古墳については、本来であれば八幡前遺跡と区別して記述すべきであるが、本報告書ではIIIa層上面・IVa層上面の順に遺構を記述していく都合により、IIIa層上面で確認した遺構の一つとして取り扱い、第3章第2節にその詳細を記述した。



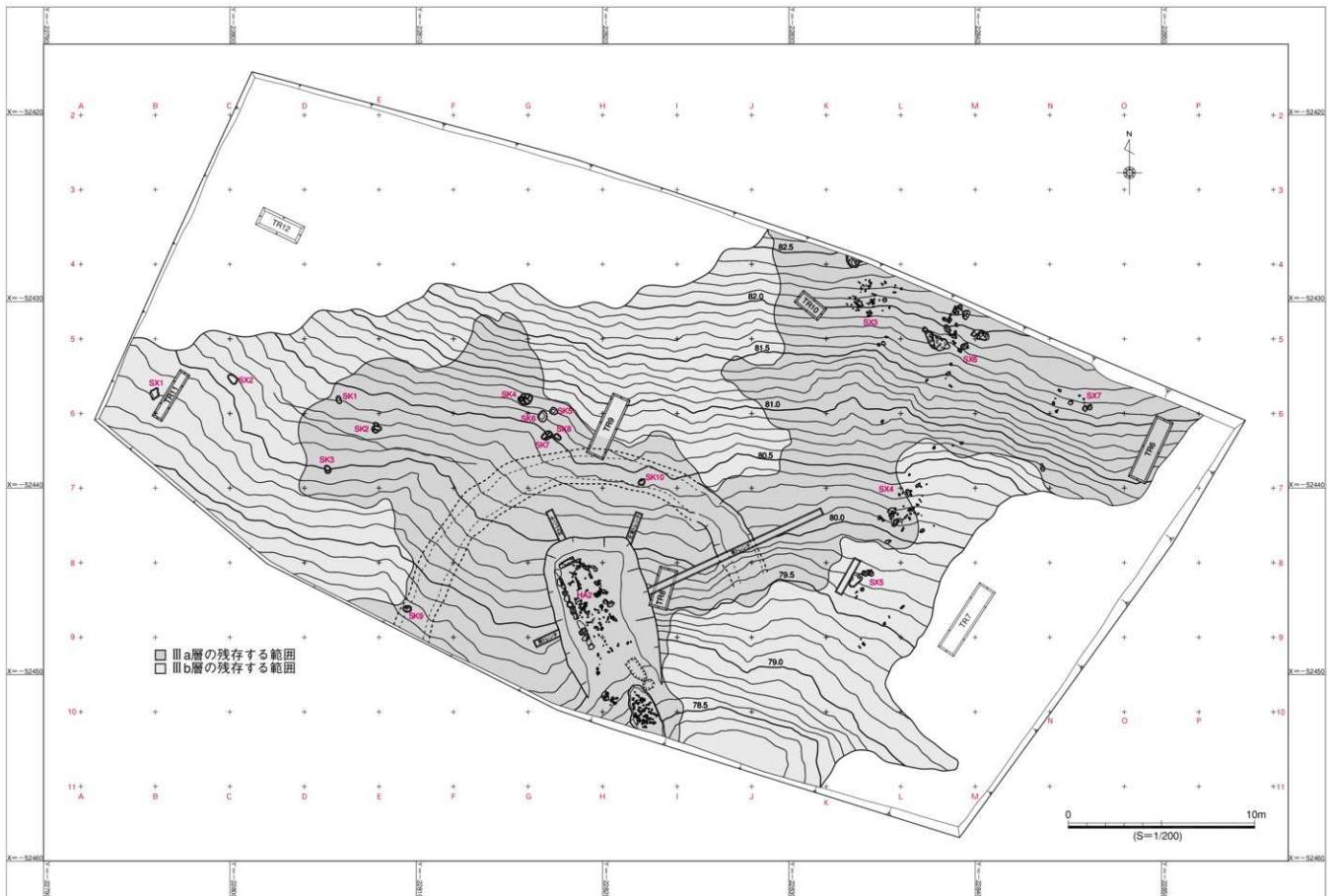
第5回 南壁土屋



第6図 西壁土層図



第7図 北豊土層図



第8図 遺構全体図（Ⅲ層上面）

## 第2節 八幡前2号古墳

### 1 概要

調査区東側の発掘調査にとりかかった際、重機掘削時に人頭大のチャート石が多数出土したことにより、古墳を存在が判明した。畑として利用されていたことから、古墳の存在を示す地形の起伏は発掘前には確認できなかった。石室については後世の大規模な削平を受けており、側壁石は完存しておらず、基底石のみが断続して並んだ状態であった。また、その基底石も西側（奥壁に向かって左側）は直線上に整然と並び、原位置を保つが、東側の側壁石については直線状に並んではおらず、原位置は保っていない。周溝は一部分のみを検出し、外護列石は確認していない。

### 2 墳丘

後世において著しい削平を受けていたため、墳丘の盛土の残存状況は極めて悪かった。主体部の南東側で一部分のみが確認できた周溝により、その規模は東西の直径が14m、墳形は円墳と推定した。

墳丘の構築状況は、傾斜地形を利用して石室の墓坑を奥壁近くではⅣ層の地山まで掘り込んで側壁・奥壁・床面を構築し、背後の裏込めを行った後、墳丘を造るための盛土をしていることを確認した。

### 3 内部主体

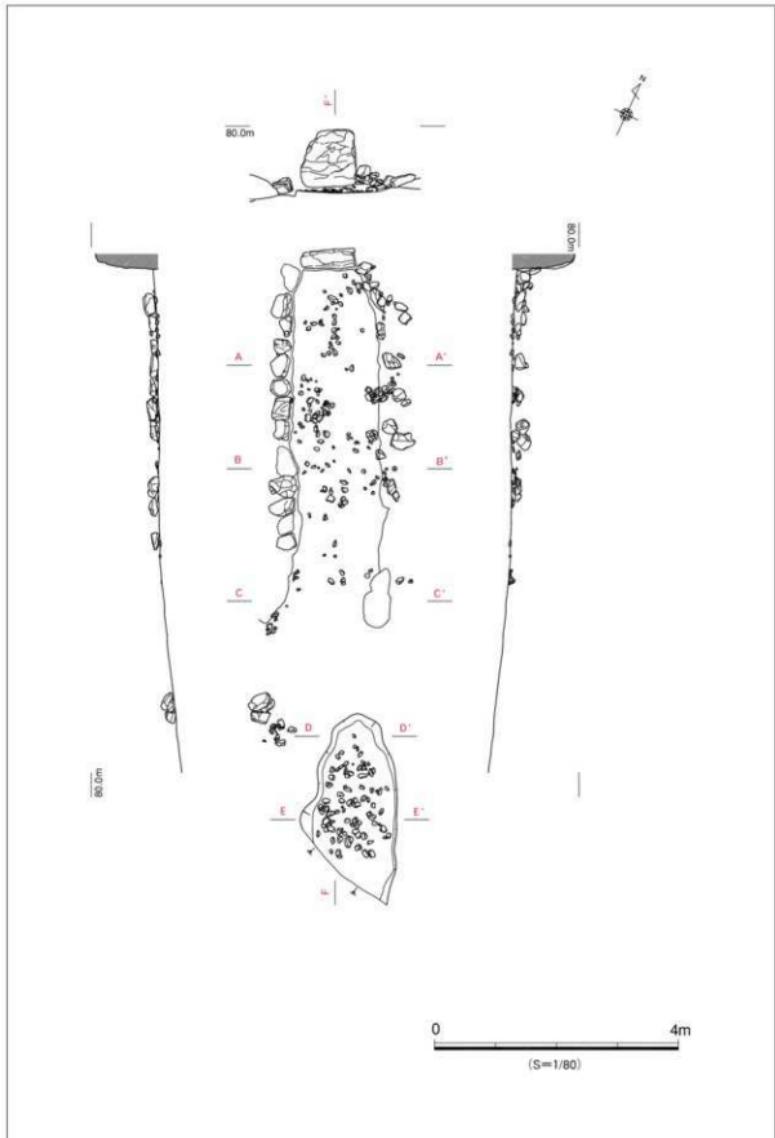
南東に開口する無袖式の横穴式石室である。主軸はN-24°-Wである。チャートを用いて構築された基底石・奥壁（高さ0.9m・幅0.9m・厚さ0.34m）が残存している。石室の幅約1.4m、長さ約7.2mである。奥壁から約4.4mの地点で基底石の並びが途切れているが、石室の前部で検出した排水溝の位置を考慮して、その地点より約2.5m離れた3つの石が、石室の最南部に設置された石と判断した。玄室と羨道部の区別は不明である。石室内部は砾床となっており、拳大のチャートが雜に敷かれている。断ち割りの結果、床面の構築は1回と判断した。

### 4 周溝

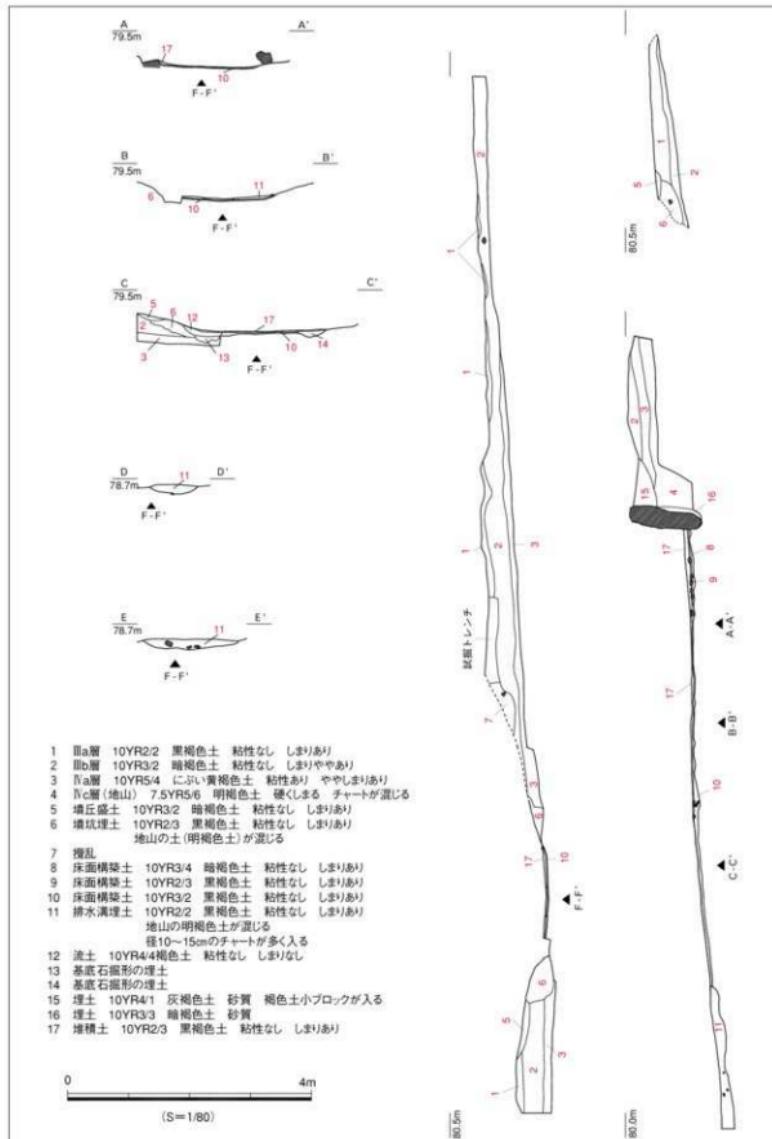
当古墳は、調査区の半転後に、調査区東側と調査区西側との境界付近で検出したため、先行した調査区西側の掘削の際に周溝の存在には気が付かず、Ⅲ層の黒色土と判断して掘削してしまっている。また、周溝埋土は、周囲の土との土色の区別が大変つき難く、先行した調査区西側での周溝の検出を困難にした。

調査区南壁セクション図（第5図）に幅約2m、深さ約0.6mの層が確認できる。掘削当初は流土と判断したが、古墳の検出後に再検討し、この箇所を周溝と判断した。また、試掘トレンチ（TR 8）においてⅢa層としていた黒色土層は、周溝埋土の可能性が高いと判断した。遺構全体図（第8図）に図示した周溝推定ラインはこれらを根拠に作成している。

検出した周溝は、石室の南東側で幅約1.7m、長さ約3.2m、最も深い箇所で深さ約10cmである。なお、古墳の東トレンチ以南については搅乱が激しく、周溝が確認できなかったため、周溝の終息地点は不明である。



第9図 八幡前2号古墳実測図（1）



第10図 八幡前2号古墳実測図（2）

## 5 付属施設（排水溝）

石室の前庭部にて排水溝を検出した。この排水溝は調査区外へと続くため、その全貌は不明である。調査区内においては幅約1.6m、長さ約3mである。排水溝を掘り込んだ後に、その内部に拳大のチャートを敷き詰めて、水捌けを良くしてある。

## 6 遺物

石室内堆積土を掘削するに当たり、石室を1~8区に区分し遺物を取り上げた。また、微細な遺物の取り上げを徹底するため、掘削土については一次整理所にて水洗選別を実施し、土師器片（15点）を確認した。

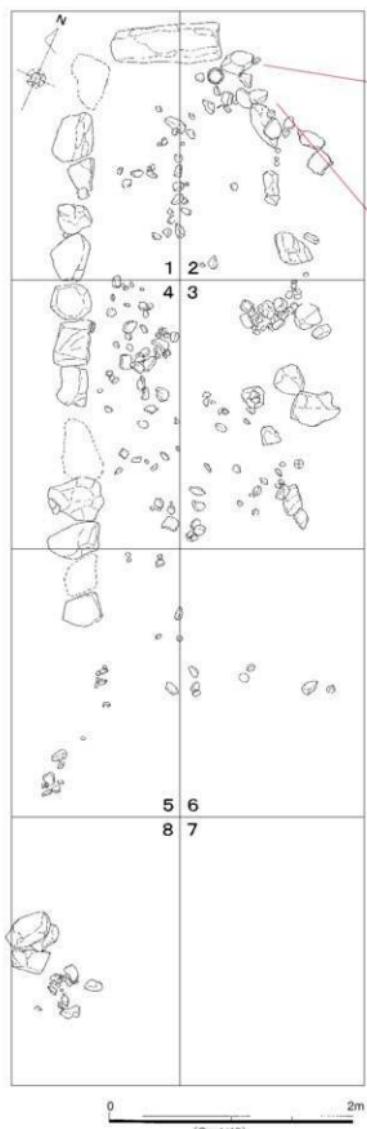
遺物は石室内から土師器鉢・土師器片・須恵器壺・鉄鎌が出土し、墓坑埋土・排水溝からは流入した石器類が出土した。

1は、玄室北東側の奥壁近く（第11図の2区）で出土した土師器の丸底の鉢である。ほぼ完形に復原できた。底部から胴部は丸く、口縁部は内傾し、面取りが施されている。器面には煤が付着している。2は須恵器の短頸壺である。欠損が大きく、器形の全体像は不明である。重機掘削中に古墳内の堆積土中から出土しているため、古墳の床直上の遺物ではない。

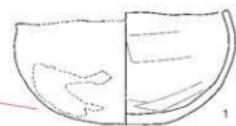
3は、1に近い位置で出土した鉄鎌である（第11図参照）。茎部で折れ2片に分かれている。2片の接点はないが、同一個体と推測される。4は石室堆積土から出土した石鎌で、基部に茎をもつ有茎鎌である。石材はチャートである。5は墓坑の埋土から出土したスクレイバーで、石材はチャートである。これらの石器は古墳築造の際などに混入した遺物である。

第3表 八幡前2号古墳の法量一覧

		八幡前2号古墳	備考
墳丘	径	14m前後	検出した周溝より推定。
	高さ	不明	削平・擾乱が激しい。
石室	プラン	無袖式	
	長さ	7.2m前後	
玄室	長さ	不明	基底石（1段目）のみが断続的に残存していたため、詳細なデータの取得は困難である。
	幅	0.9m~1.4m程度	
	高さ	不明	石室幅に対して石室長が大きいような気がするが、近隣に所在する塚穴古墳群も同じようなプランをもつ（第4章参照）。
羨道	長さ	不明	
	幅	1.2m程度か	
	高さ	不明	
周溝	幅	1.7m	深さについては削平・擾乱により、当初よりも浅くなっている。
	深さ	0.1m	



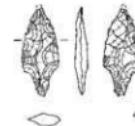
第11図 古墳区割り図



0 10cm  
(1-2 S=1/3)



(S=1/1)



0 5cm  
(4-5 S=2/3)

第12図 八幡前2号古墳出土遺物

## 第3節 Ⅲ層上面の遺構と遺物

### 1 遺構

Ⅲ層はⅣa層の上に堆積した黒色～暗褐色の土層で、調査区の中央部に広がっている。調査区の全体に見られないのは、平坦な畑地の開墾するために斜面を切り取った際、Ⅲ層の大部分が削り取られていることによるものと考えられる。Ⅲ層の堆積状況は八幡前2号古墳の周辺で約0.48m～0.56mの厚さの堆積があり、斜面の上方（調査区西～北～東）にかけては次第に薄くなっていく。この層から八幡前2号古墳が掘り込まれていることから、Ⅲ層上面は古墳時代の生活面に該当し、Ⅲ層上面で検出した遺構については古墳時代に帰属すると認識している。Ⅲ層は上層から順にⅢa層・Ⅲb層が確認でき、調査区北東側の一段高くなっている畠との境付近（L4・M4・N4・N5・O5グリッド）においては、さらにⅢc層の堆積が見られる。

このⅢa層の上面においては第2節で詳述した2号古墳を確認しているが、そのほかに土坑10基（SK1～SK10）、集石遺構5基（SX3～SX7）、Ⅲb層上面で焼土を伴う土坑2基（SX1～SX2）を確認した。土坑については全体的に規模が小さく浅い穴である。遺物は出土しておらず、円形若しくは梢円形の掘り込みが確認できたのみで詳細不明である。石の集積については、古墳の石室が崩壊した痕跡、若しくは古墳築造に用いた石材の可能性も考えられる。

また、東西方向に筋状に延びる耕作痕（茶などの根跡）を多数検出したが、これらは埋土の様相が新しく、後世（近現代）の畠地耕作に伴うもので、Ⅰ層の耕作土からの搅乱と考えている。

以下にⅢ層上面で検出した遺構を個別に解説する。法量については、原則として遺構一覧表（第4表～第7表）に記載した。また、これらの法量は実際に現地で遺構を計測したデータであるため、実測図面等と比較して、ごく僅かな誤差が生じている遺構もある。

#### SK 1

小規模な円形の土坑。埋土は黒褐色土で、掘り込みは浅い。

#### SK 2

小規模な不整形の土坑。埋土は褐色土で、小礫（径0.5～1cm程度）を含んでいた。

#### SK 3

小規模な梢円形の土坑。埋土は暗褐色土で、掘り込みは浅い。

#### SK 4

不整形の土坑。チャート・川原石（径30cm程度）の2つの石が入っていた。完掘面は凹凸が激しい。埋土は粒子が大変細かい砂質土である。

#### SK 5

小規模な円形の土坑。埋土は褐色土で、掘り込みは浅い。

#### SK 6

小規模な梢円形の土坑。埋土は暗褐色土で、掘り込みは浅い。

#### SK 7

小規模な梢円形の土坑。埋土は暗褐色土で、掘り込みは浅い。

**SK 8**

小規模な梢円形の土坑。埋土は黒褐色土で、掘り込みは浅い。

**SK 9**

円形の土坑。遺構の北側が木根による擾乱を受けている。埋土は2層で、上層の黒褐色土はチャート（径4～6cm程度）を含んでいた。

**SK 10**

円形の土坑。チャート（径約30cm×30cm）が1個入っていた。土坑を掘り、砂質土を入れ、その上に石を置いている状況が確認できた。

**SX 1**

調査区西側、Ⅲb層上面において検出した。不整形で小規模な焼土を伴う土坑である。熱を受けて土が赤褐色に変化している部分の厚さは7cmある。

**SX 2**

調査区西側、Ⅲb層上面のSX 1から約1m離れた場所で検出した。径60cm程度の不整形で小規模な焼土を伴う土坑である。この周囲からは細かな炭を濃密に検出した。

**SX 3**

比較的小さいチャートが散乱していた。石室の襖床とも考えられるが、調査区内及び北の畑地境にチャート岩（幅約90cm・高さ約80cm）があることから、このチャートからの自然な剥離の堆積の可能性が高い。

**SX 4**

直線上に並んだ3点のチャートを検出した。この列は、八幡前2号古墳の基底石とほぼ平行となるため、崩壊した別の古墳である可能性を考え、トレンチ掘削等を実施したが掘り込みは確認できなかった。この付近は谷地形となり水の流れる場所であるため、上方から流れ落ちてきた石が積み重なっているという可能性もある。

**SX 5**

崩壊した別の古墳である可能性を考え、トレンチ掘削等を実施したが掘り込みは確認できなかった。

**SX 6**

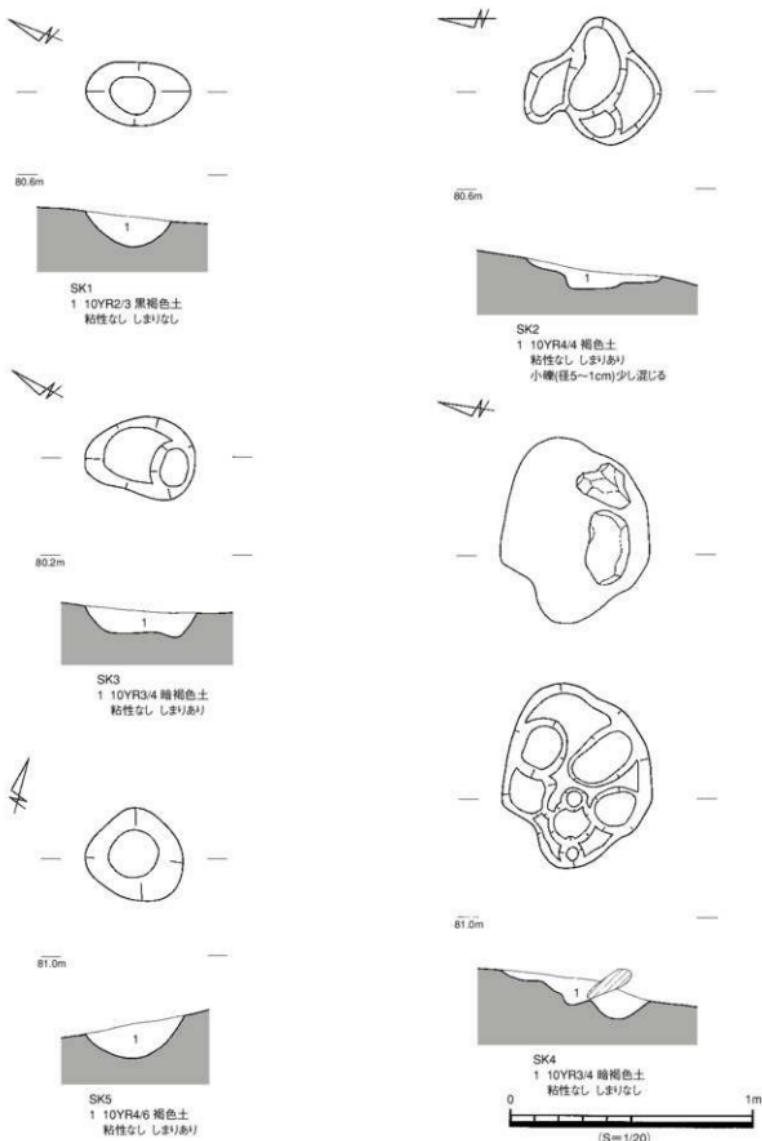
崩壊した別の古墳である可能性を考え、トレンチ掘削等を実施したが掘り込みは確認できなかった。

**SX 7**

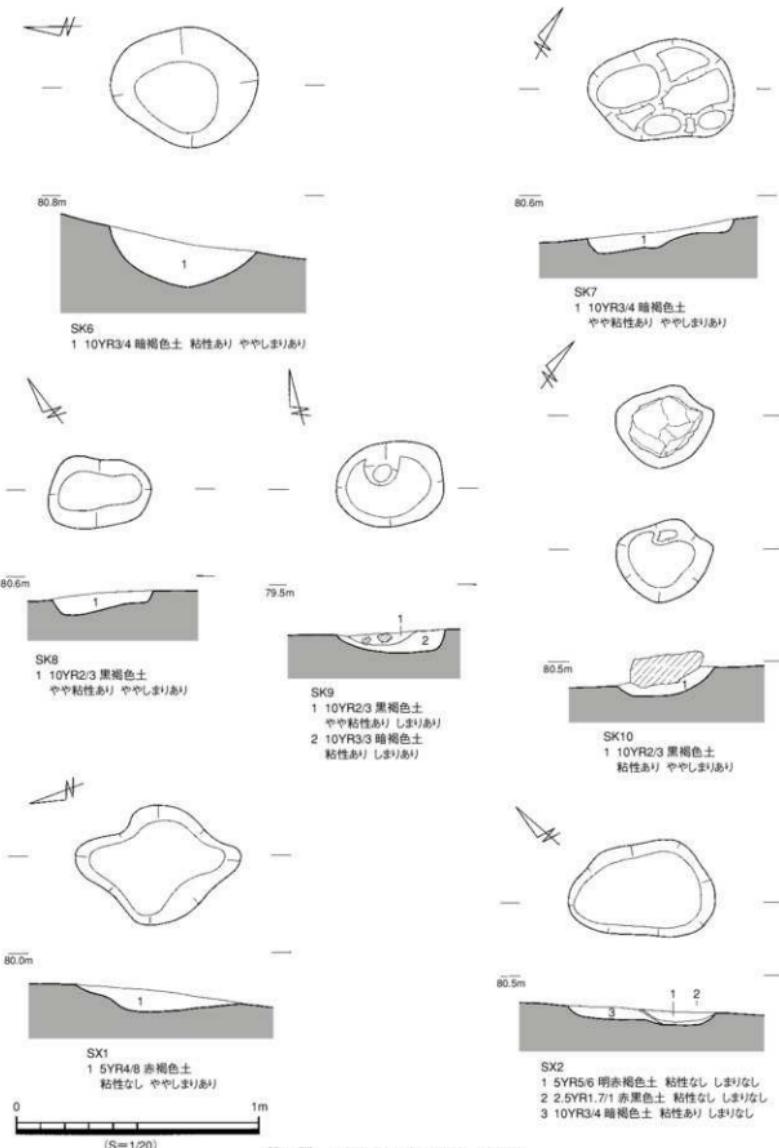
チャートと砂岩の集積である。これらが一直線に並び、その方向が八幡前2号古墳とほぼ平行になっていたが、掘り込んだ跡は確認できなかった。この付近からは土師器片・須恵器片が集中して出土した。また、無蓋高杯（90）・竈（91）が出土したことから、SX 6は、崩壊した別の古墳の石室石材が集積したものと推測することが可能である。一方、この斜面上方の調査区外から流れてきた可能性も否定できない。

**2 遺物**

Ⅲa層上面で検出した遺構からは遺物は出土しなかった。耕作痕（時代不詳）からはわずかに土器片（4点）などが出土しているが、これらの遺物は包含層遺物として取り上げている。



第13図 SK 1 ~SK 5



第14図 SK6～SK10・SX1・SX2

## 第4節 IVa層上面の遺構と遺物

### 1 遺構

調査区内は、随所で上層からの擾乱が激しく、遺構面の下層の地山面にまで掘り下げないと遺構のプランが明確にならない場所もあった。特に調査区西北側（C3・D3・E3・D4・E4グリッド）については遺構を検出すべきレベルより下の地山（IVb～IVc層）面近くまで掘り込んで遺構を検出していいる箇所もある。

このような状況ではあるが、IVa層上面では土坑を165基検出した。調査区の西側で多く、東側・南側にいくにつれ、遺構密度も小さくなる。その殆どは長軸径が0.2～0.4m程度で、深さも0.2m以下の小規模な土坑である。また、165基検出した土坑のうち、遺物の出土した土坑は27基と少なく、土器片と石器類が出土した土坑は12基、土器片のみ出土した土坑は11基、石器類（碎片を含む）のみ出土した土坑は4基である。土器片の殆どは小破片であるため、時期は細分できていない。

ここでは、出土遺物を伴う比較的の規模の大きな土坑についてのみ掲載し、その他の土坑は実測図（第19図～第28図）と遺構一覧表（第4表～第7表）の掲載にとどめた。また、法量については実際に現地にて検出時・完掘時に計測したデータであるため、実測図面等と比較して、ごく僅かな誤差が生じている遺構もある。

### SK19・SK20

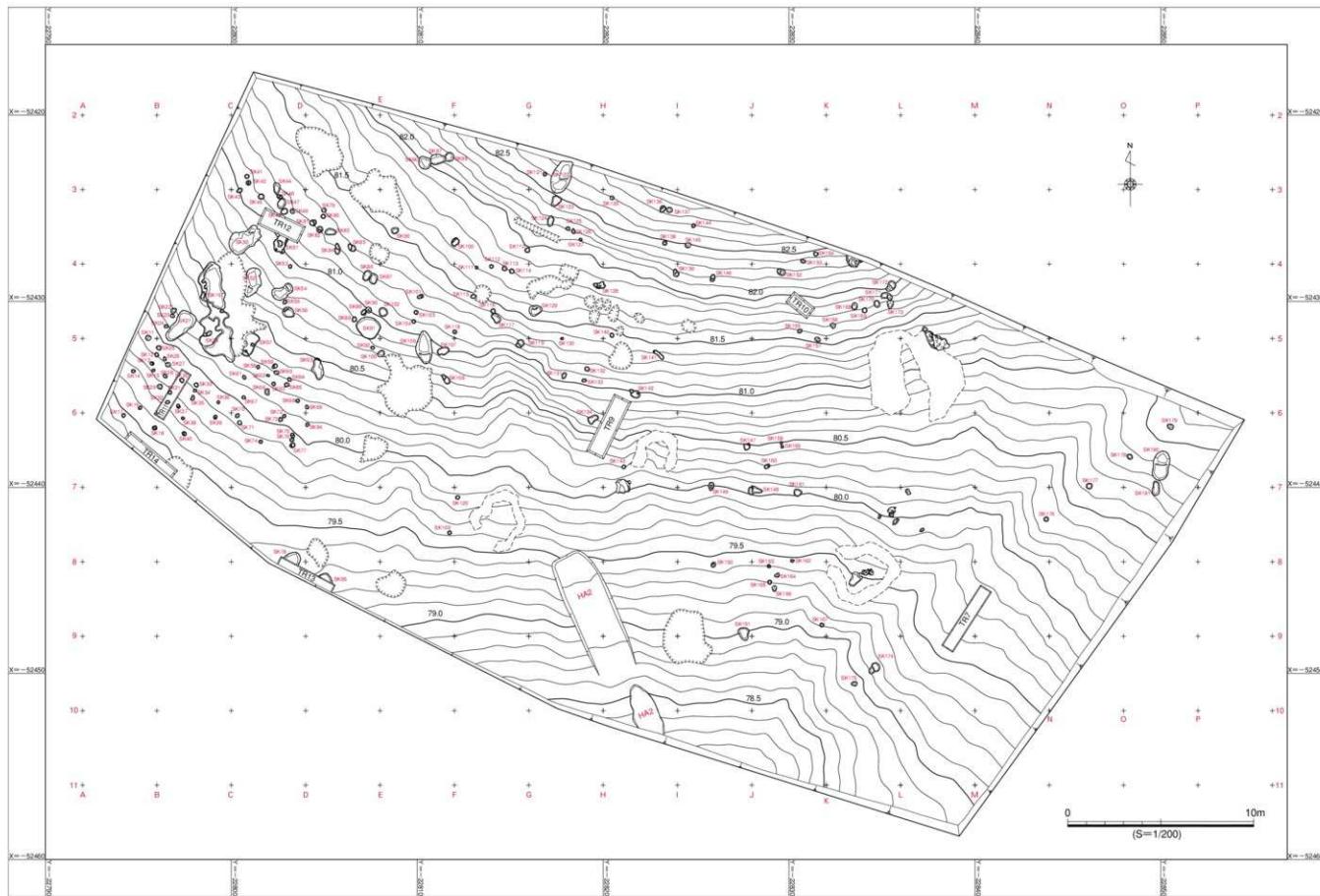
不整形の土坑である。SK19の上部は、耕作による擾乱を受けていた。さらにSK19・SK20の東側には樹木の繁殖により、遺構が壊されていた。SK19をSK20が切ると判断して検出したが、同一の遺構と考えても不自然ではない。SK19の埋土は4層に分かれ、埋土は黒褐色～暗褐色であった。土器片・石器片などの遺物を多く包含していた。SK20は1層のみで、遺物はSK19と比べてかなり少ない。SK19・SK20については、東のSK52・SK54・SK57等と繋がる住居跡の可能性を考え、小トレンチを4本入れて調査を試みたが、遺構の広がりは確認できなかった。そのため、それぞれは単独の遺構ということが判明した。また、SK20はその中央部に台石（24）が垂直に立つ状態で出土した。

土器片が、SK19から123点、SK20から11点出土した。いずれも小破片であり、全体の形状は不明である。石器についてはSK19から石鏃2点、スクレイバー4点、石核1点、剥片27点などが出土した。また、この遺構付近では、試掘確認調査において下呂石の剥片・碎片などの遺物が集中して表探されている。

遺構の時期は、土器片から縄文晩期～弥生前期と推測される。

### SK50

不整形の土坑である。SK19・SK20と同様に深い。埋土は黒褐色土と黒褐色砂質土の2層に分かれ。土器片が19点出土した。いずれも小破片であり、全体の形状は不明である。そのほかに石鏃・スクレイバー・剥片などが出土した。遺構の時期は、土器片から縄文晩期～弥生前期と推測される。



第15図 遺構全体図 (IVa層上面)

**SK52**

不整形の土坑である。搅乱の影響で西側の検出ラインは不明確であり、遺構の推定ラインを図示した。埋土は3層に分かれる。暗褐色～黄灰褐色の砂質土である。剥片・楔形石器・石核などが多く出土した。土器片は96点出土したが、いずれも小破片であり、全体の形状は不明である。遺構の時期は、土器片から縄文晩期～弥生前期と推測される。

**SK54**

不整形の土坑である。埋土は黒褐色砂質土の1層である。土器片が25点出土した。小破片であり、全体の形状は不明である。そのほかに石皿・スクレイバー・剥片が出土した。遺構の時期は、土器片から縄文晩期～弥生前期と推測される。

**SK58**

円形の浅い土坑である。埋土は黒褐色土の1層である。土器片が9点出土した。小破片であり、全体の形状は不明である。石器類は剥片が出土した。遺構の時期は、土器片から縄文晩期～弥生前期と推測される。

**SK93**

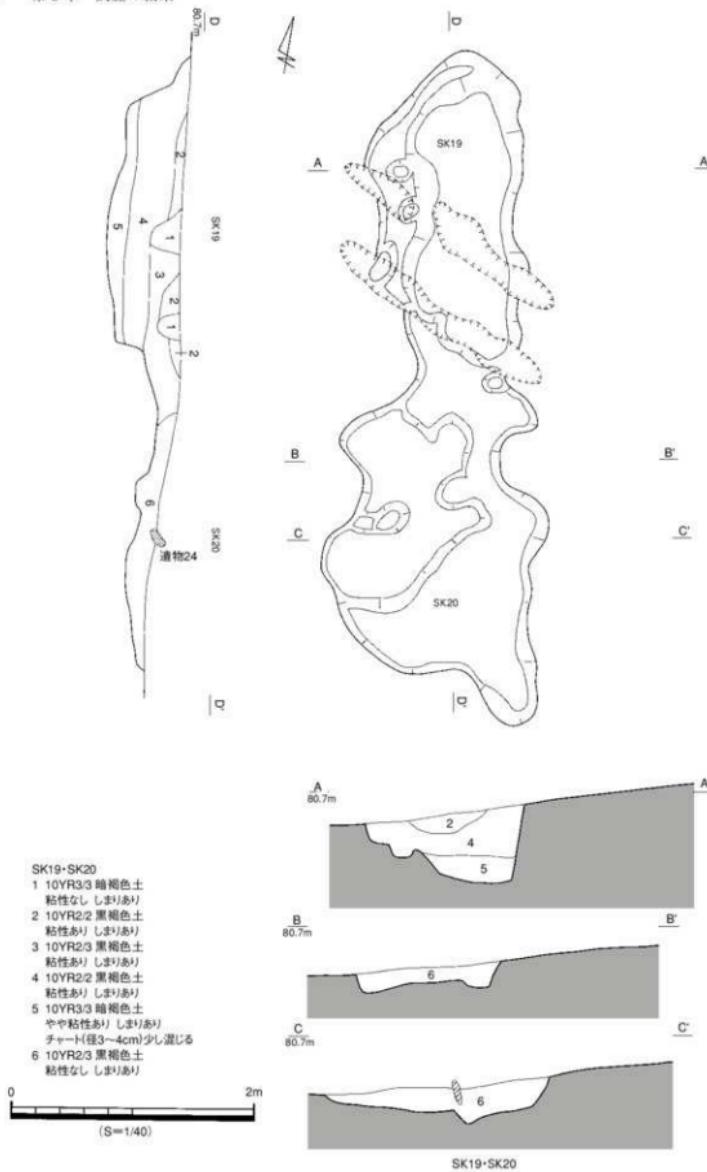
楕円形の土坑である。検出の際にやや掘り下げ過ぎた嫌いがあり、実際はもう少し深い。黒褐色の埋土にチャート（径3cm程）が混じっていた。遺構の北側にチャートを2つ検出したが、人為的に配置されていると考えられる。土器片が2点出土した。小破片である。遺構の時期は、土器片から縄文晩期～弥生前期と推測される。

**SK176・SK177・SK178・SK179**

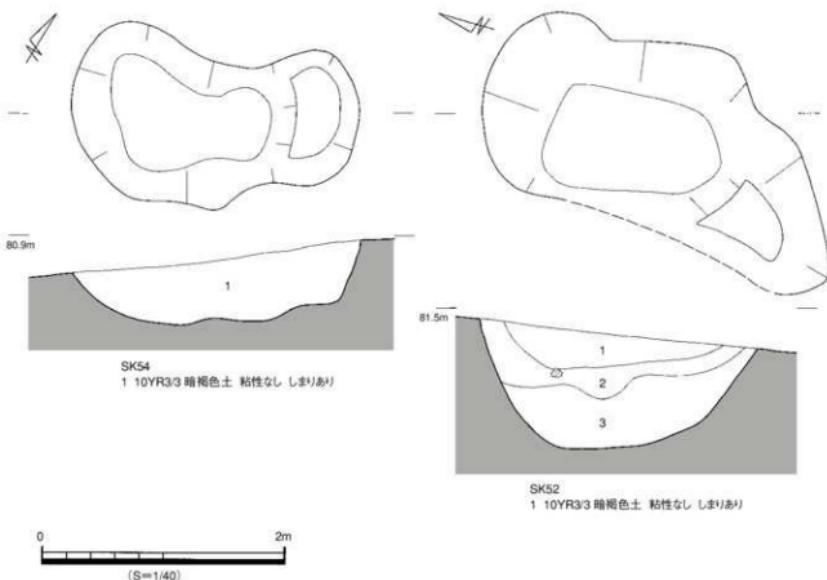
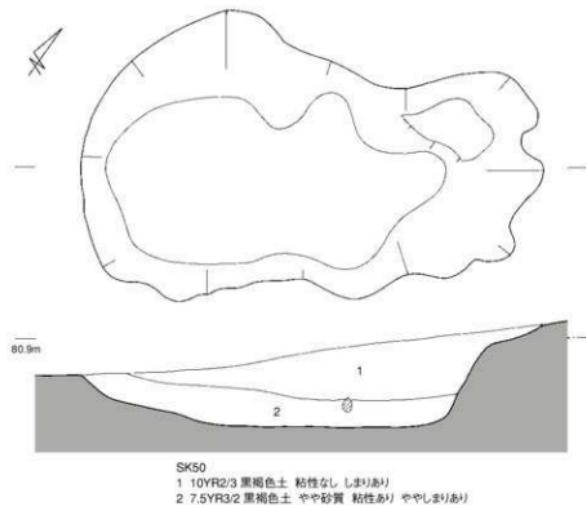
いずれも径が0.3～0.5m程度の円形の土坑である。約2.7m毎には等間隔に掘り込まれている。横列などの可能性を考えている。遺物は出土していない。また、これらの遺構の東側にSK180・SK181のやや大きな土坑があるが、ここからも遺物は出土していない。遺構の時期は不明である。

**その他の土坑**

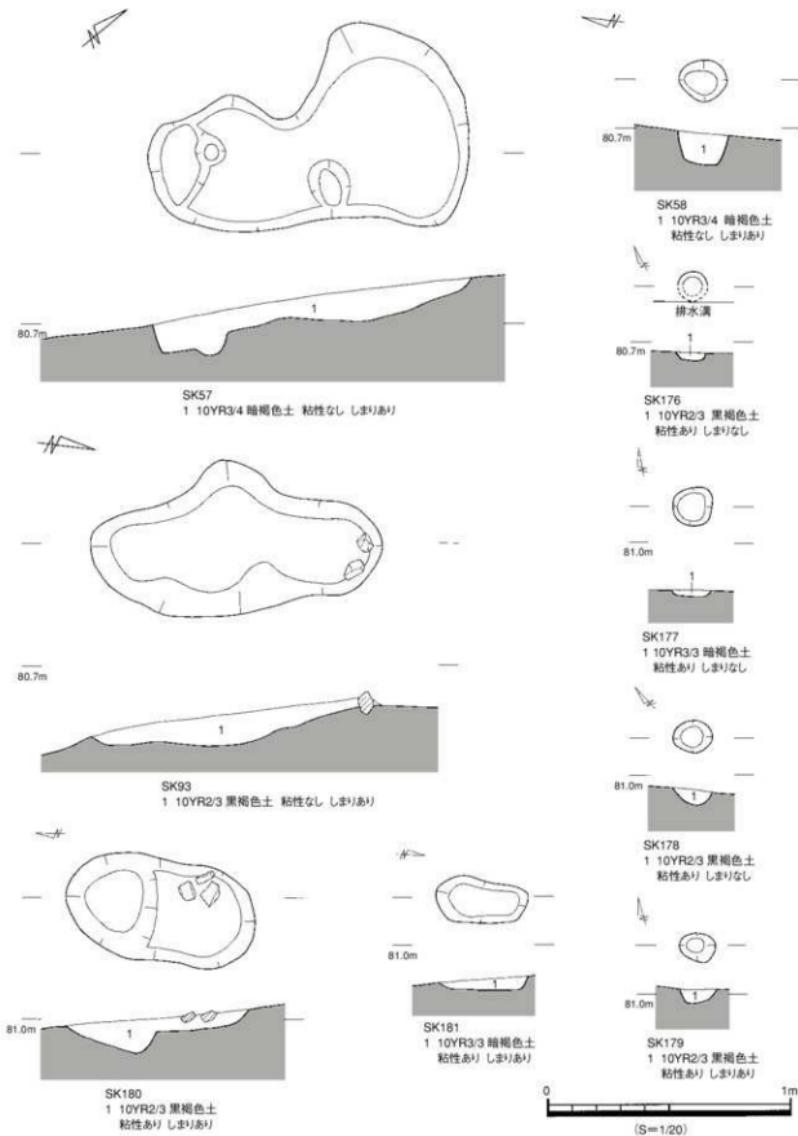
全体として規模が小さく、浅い穴が多い。調査区西側から北側にかけて比較的多く検出した。建物跡などに推定できるような明確なまとまりは確認していない。



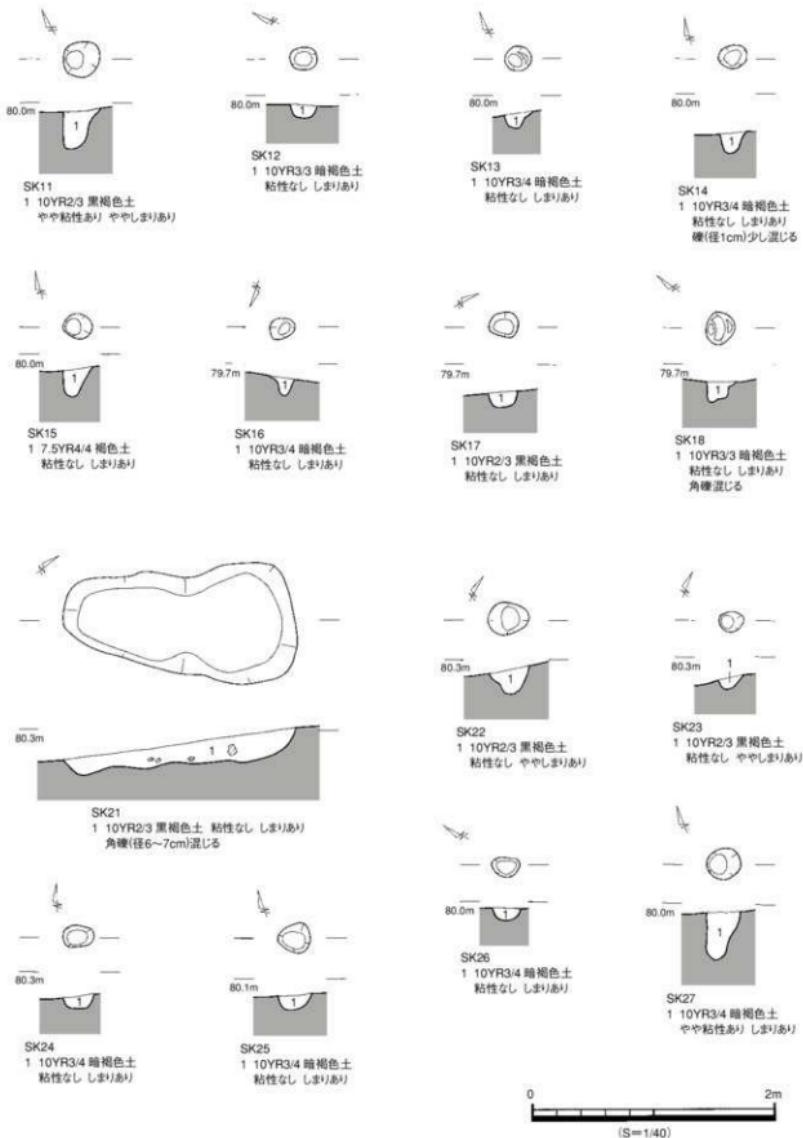
第16図 SK19・SK20



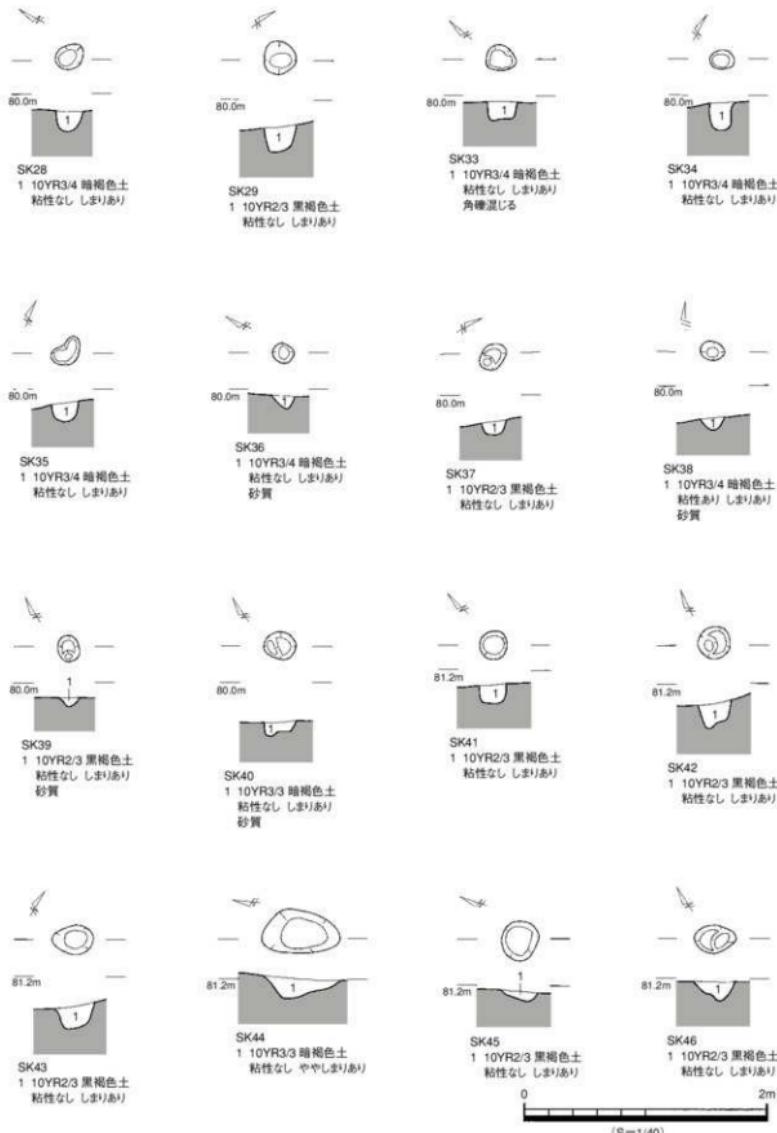
第17図 SK50・SK52・SK54



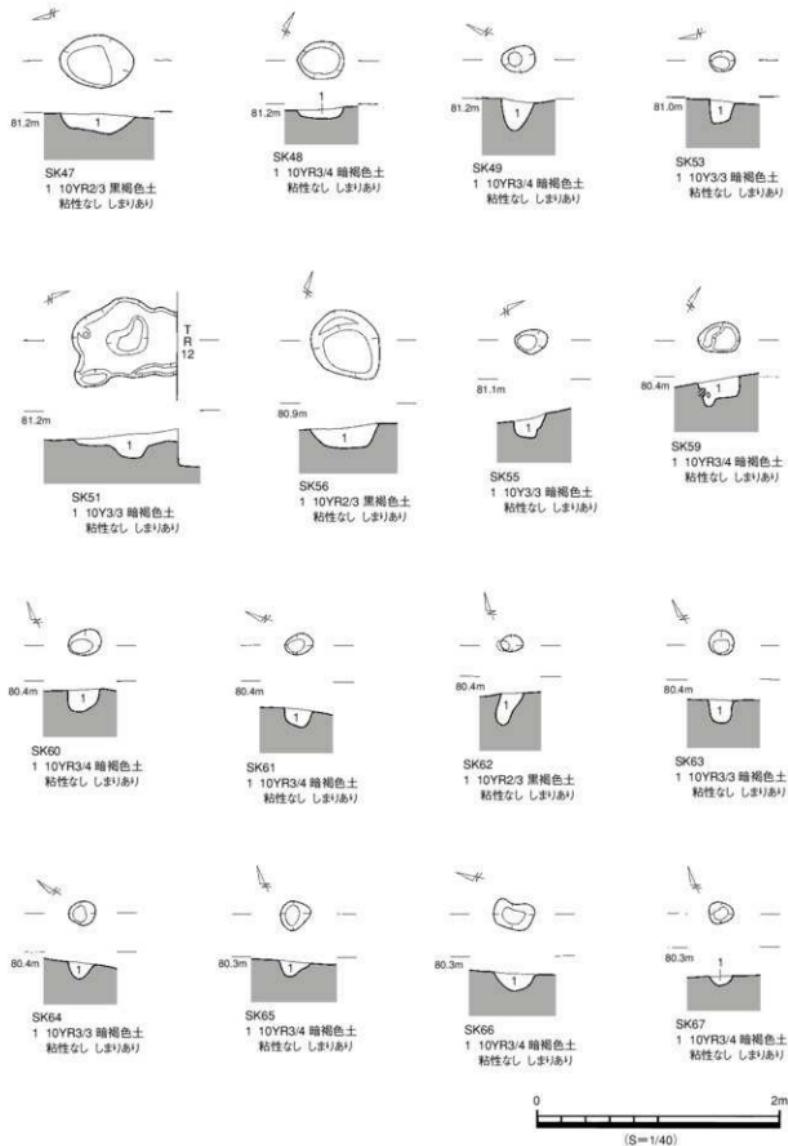
第18図 SK57・SK58・SK93・SK176～SK181



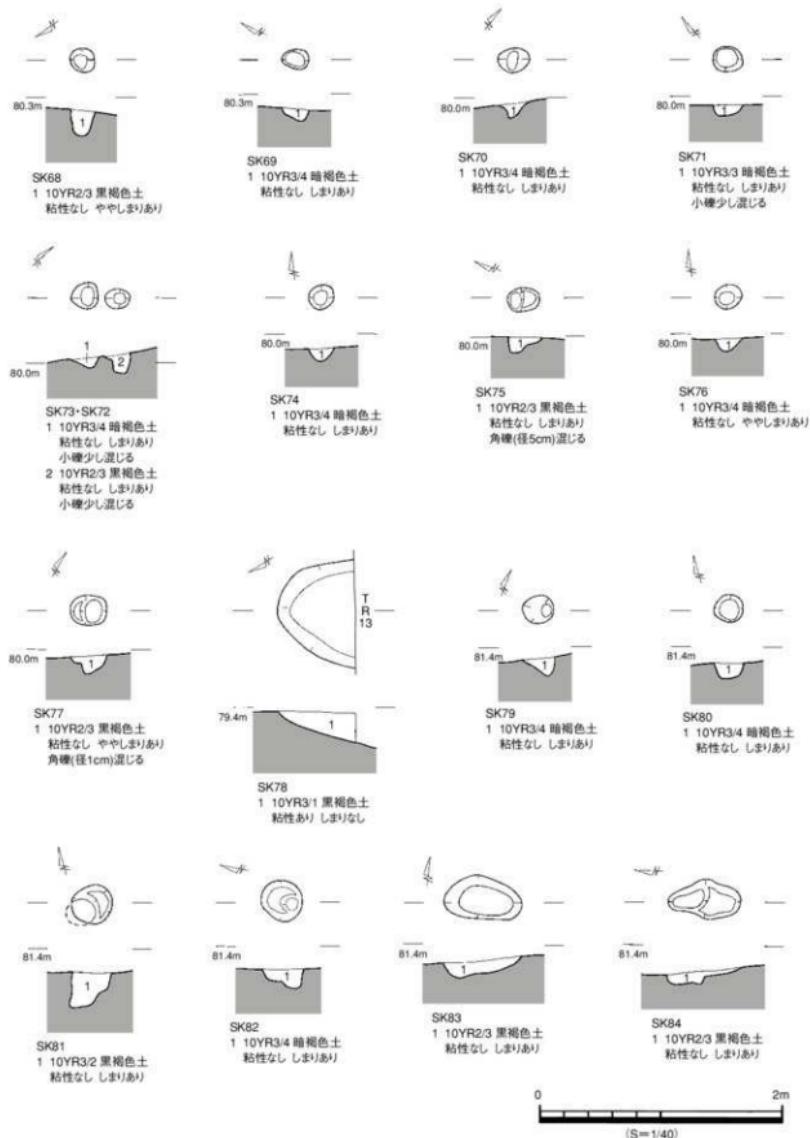
第19図 その他の土坑 (1)



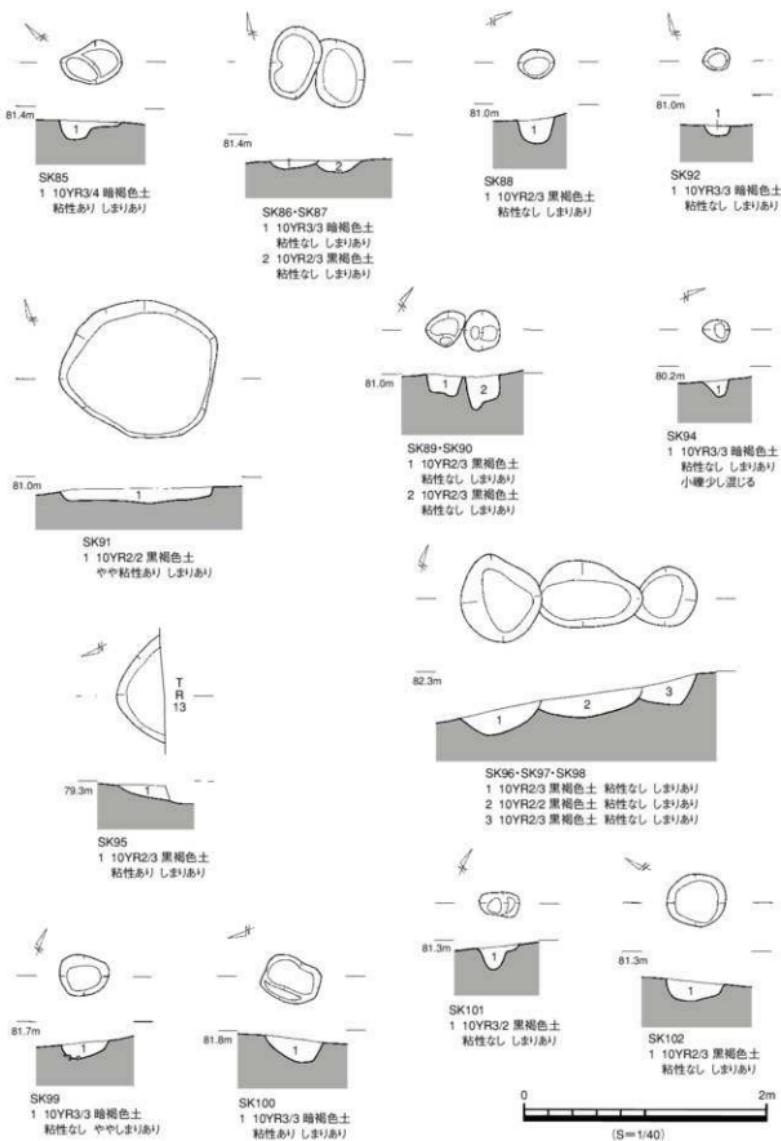
第20図 その他の土坑（2）



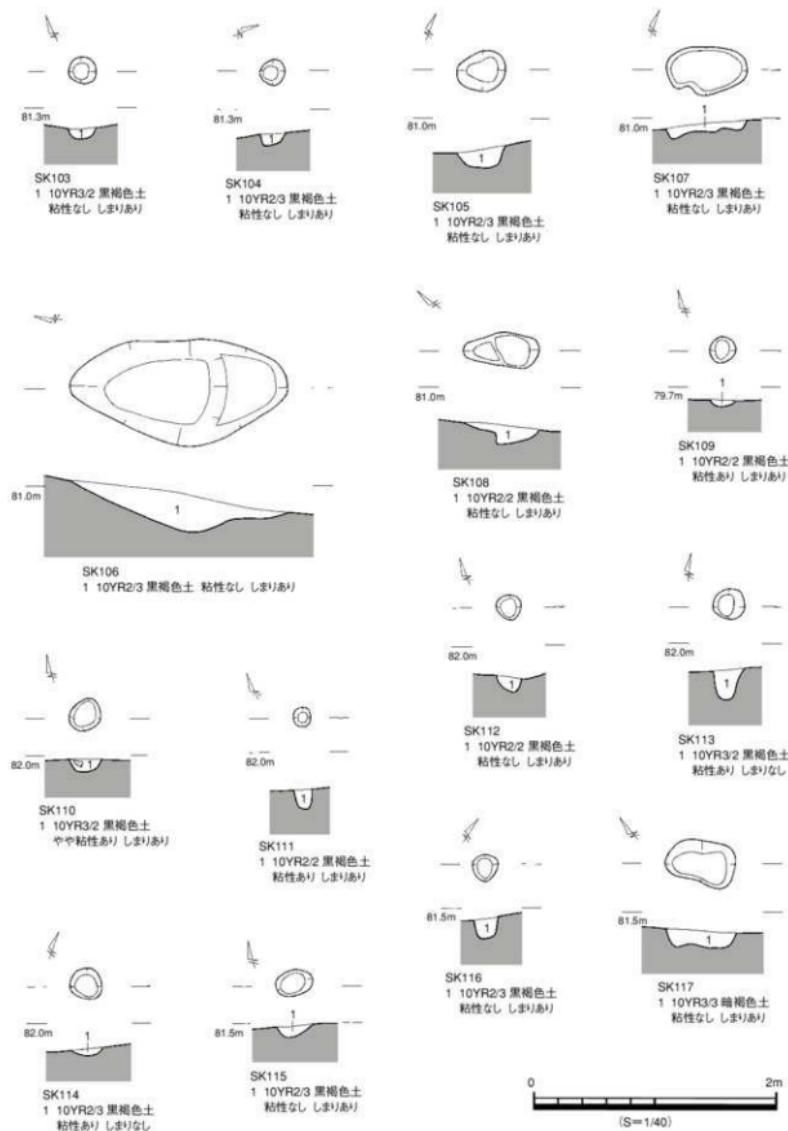
第21図 その他の土坑（3）



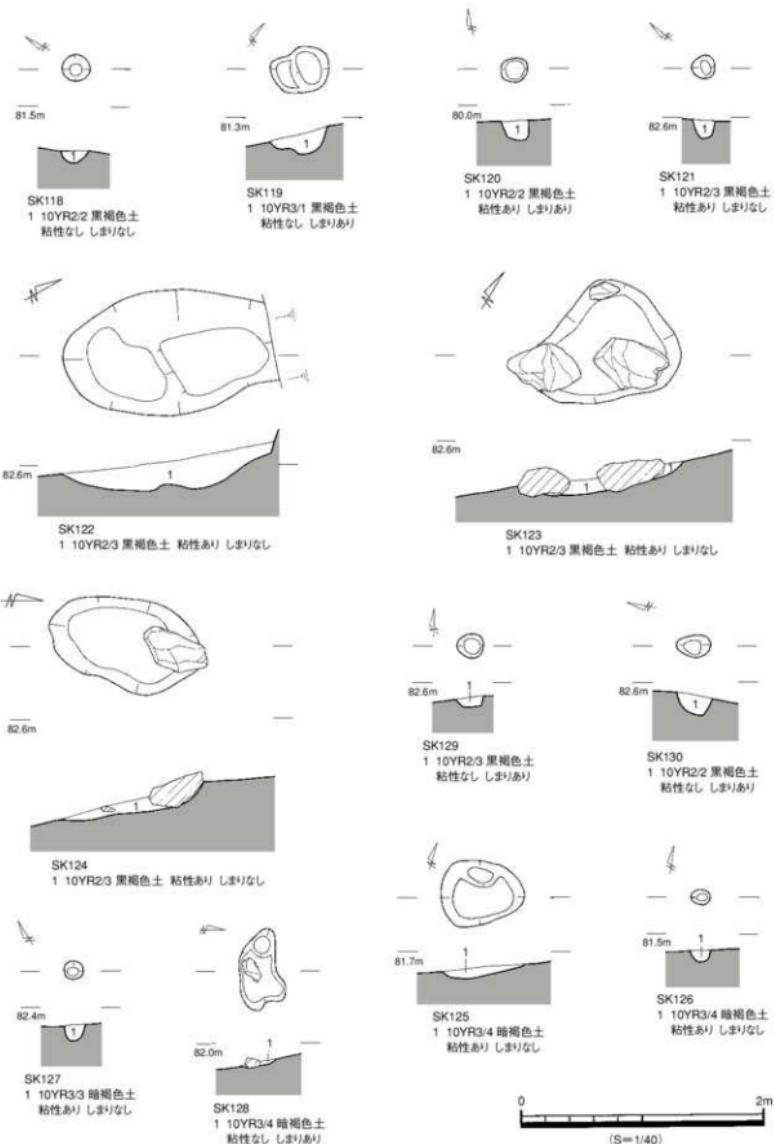
第22図 その他の土坑（4）



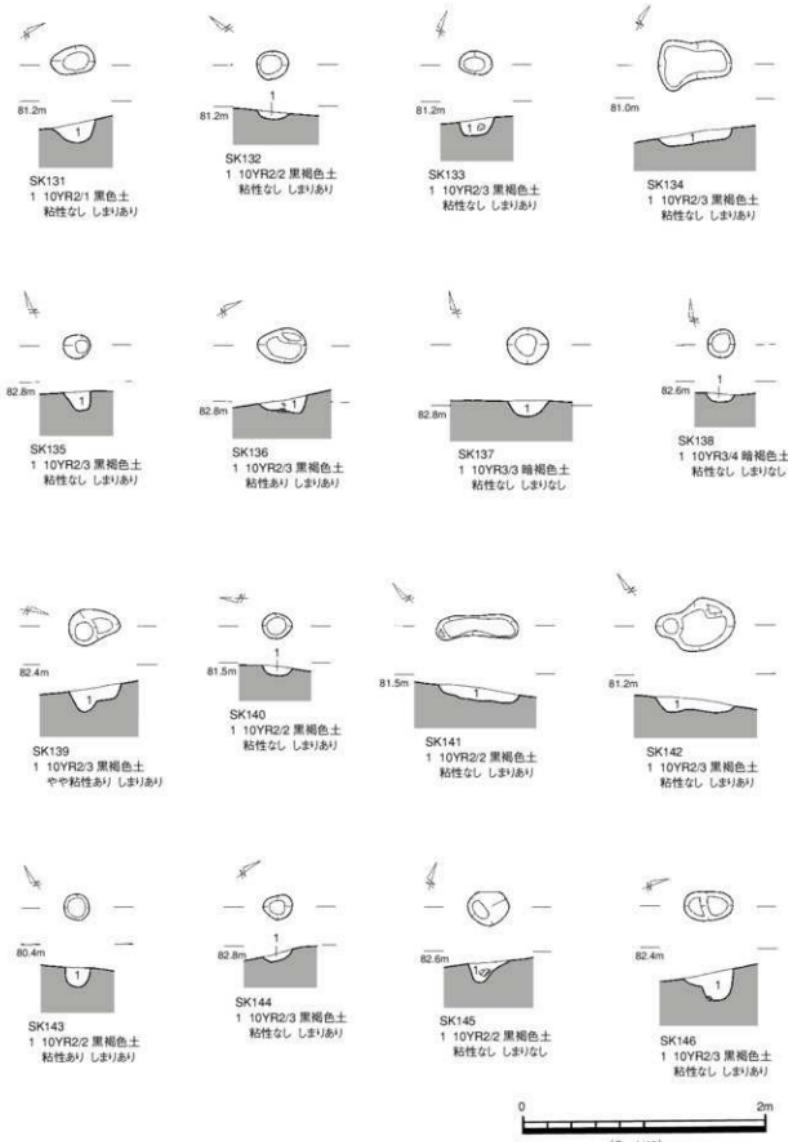
第23図 その他の土坑（5）



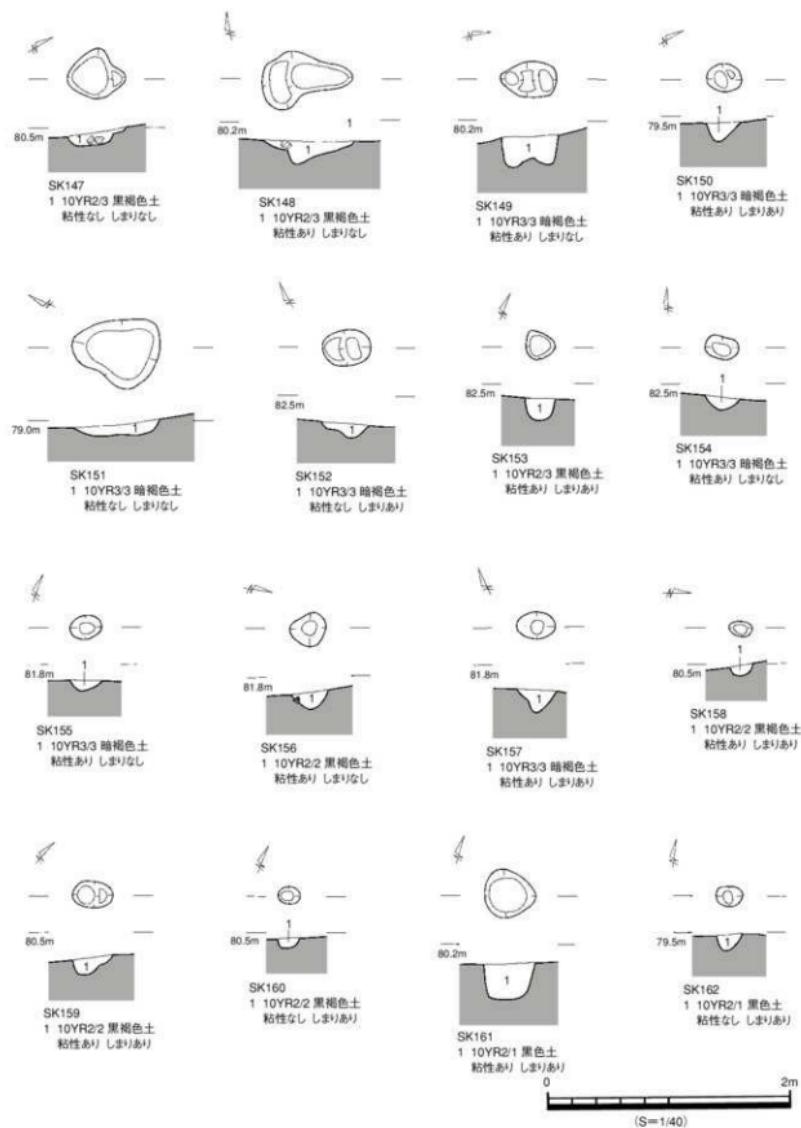
第24図 その他の土坑（6）



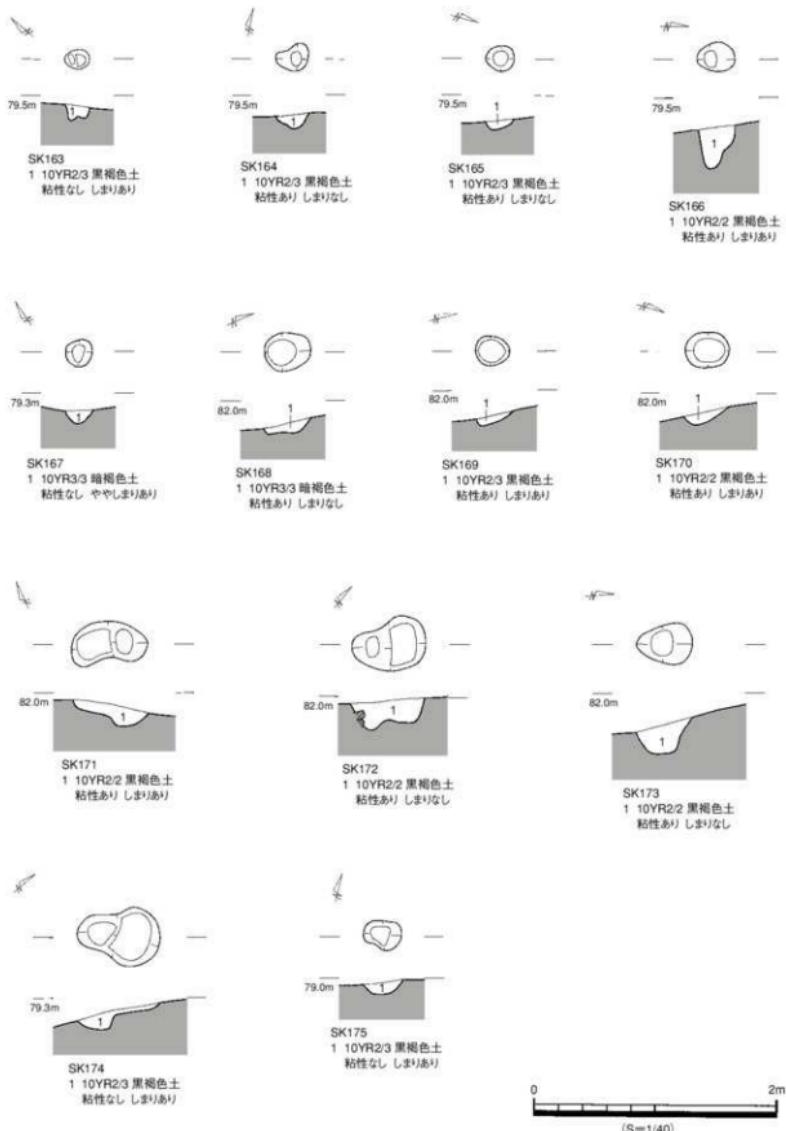
第25図 その他の土坑 (7)



第26図 その他の土坑 (8)



第27図 その他の土坑 (9)



第28図 その他の土坑 (10)

## 2 遺物

IVa層上面において検出した遺構は、土坑が171基である。そのうち、遺物の出土した土坑は33基と少ない。土器類については小破片の出土のみであり、全体の器形は不明で遺物の時期を特定し得ないものが多い。ここでは、遺構（土坑）より出土した遺物39点（6～44）を掲載する。

### SK19出土遺物（6～22）

出土した土器片は123点で当遺跡の遺構の中で最も多い出土量である。すべて小破片であるが、6～12を図示した。6は縄文土器、そのほかは弥生土器と考えられる。11は壺口縁部・12は壺底部である。胎土の観察から11と12を同一個体と判断した。

石器類は石鎌1点・石鎌未製品1点・スクレイバー3点・石核1点・剥片31点・鉋片5点・石錐1点・敲石1点などが出土した。

13は石鎌で、基部が欠損している。石材は下呂石で、尖頭部は鋸歯状の側縁部を意図して作りだしている。14は石鎌の未製品と判断した。15・16はスクレイバーとしたが刃部の調整は雑である。17は石核で、下呂石を円礫の状態で当遺跡に運び込んで加工している。剥片はチャート15点・下呂石15点・凝灰質泥岩1点が出土し、18・19・20の3点を図示したが、20についてはヘラ形石器の一部の可能性もある。21は石錐、22は敲石で下部に敲打痕が確認できる。

### SK20出土遺物（23～24）

土器片が20点出土した。23は壺の口縁で無文である。

石器類は剥片が2点・台石が1点が出土した。24の台石は表裏ともに多数の敲打痕が確認できる。石材は安山石を利用している。

### SK21出土遺物（25）

土器片が7点出土した。石器類は、器種不明の石器（25）が出土した。石材はチャートである。

### SK48出土遺物（26）

石鎌（26）が1点出土した。基部には凹状の抉りが入り、片側が欠損している。石材は下呂石である。

### SK50出土遺物（27・28）

土器片が19点出土した。27は壺の口縁、28は器種不明である。ともに条痕文が確認できる。

石器類は石鎌が1点・石鎌の未製品が1点・スクレイバー1点・剥片9点などが出土した。29は石鎌で完存している。基部には凹状の抉りが入り、尖頭部は鋸歯状の側縁部を意図して作りだしている。石材はチャートである。30は石鎌の未製品と判断した。石材は下呂石である。31はスクレイバーで刃部の調整は雑である。図示していないが、出土した剥片9点はチャート7点・下呂石2点という状況である。

### SK52出土遺物（32～38）

土器片が96点出土した。32は縄文土器で、深鉢の胴部破片と判断した。33は器種不明の口縁部破片である。炭化物が付着している。34は器種不明の胴部破片である。条痕文が摩滅している。35・36は同一個体とみてよい。棒状工具で凹線状に条線文が施されている。

石器類は楔形石器1点・石核1点・剥片12点・凹石1点が出土した。37は石核で、安山岩である。

図示はしていないが、出土した剥片12点はチャート6点、下呂石6点という状況である。38は凹石で、表裏面・側面に使用痕が見られる。石材は安山岩で被熱した痕跡が明確に認められる。

#### SK54出土遺物（39・40）

土器片が25点出土した。石器類は、スクレイバー1点・石皿1点・剥片1点が出土した。39はスクレイバーで石材はチャートである。刃部の調節が雑である。40は石皿である。4分の1程度しか残存していない。石材は溶結凝灰岩である。図示はしていないが、この遺構から出土した剥片の石材はチャートである。

#### SK60出土遺物（41）

土器片が6点出土した。石器類はスクレイバー（41）が出土した。石材はチャート、刃部の調整は雑である。

#### SK91出土遺物（42）

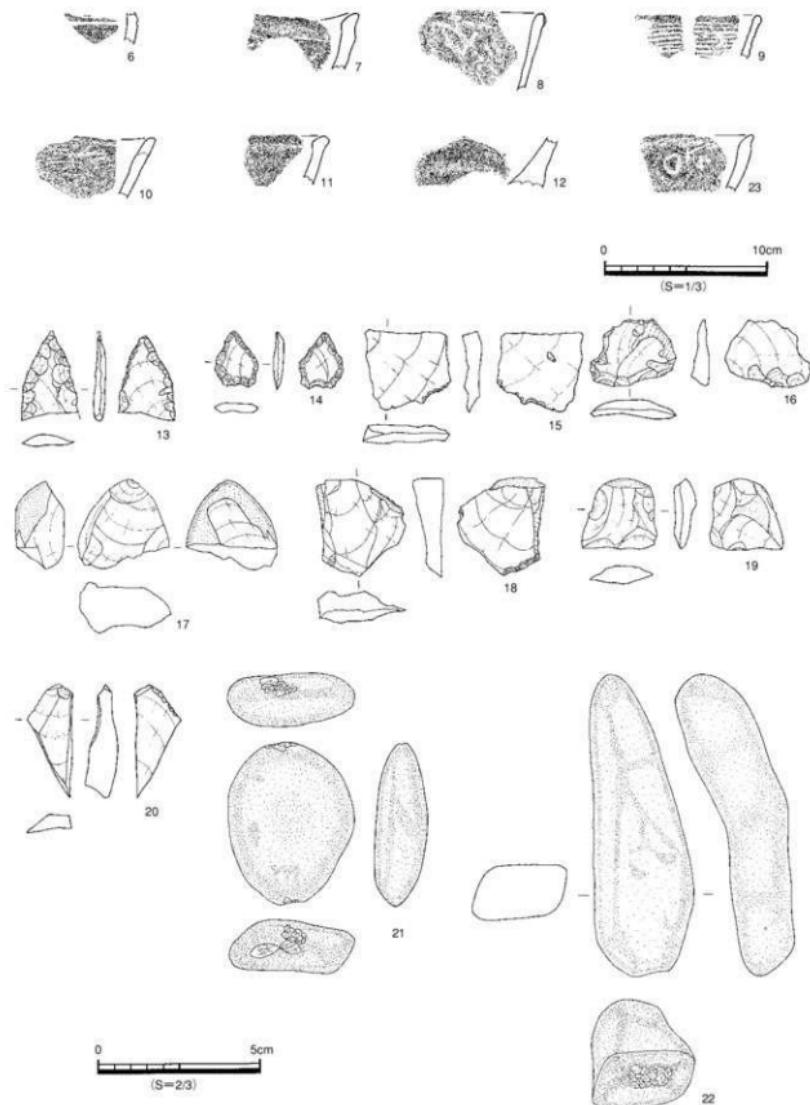
土器片が13点出土した。石器類は、石錐1点・剥片1点が出土した。42の石錐は、上部が欠損し錐部の下部のみが残存している。図示していないが、剥片の石材は下呂石である。

#### SK93出土遺物（43）

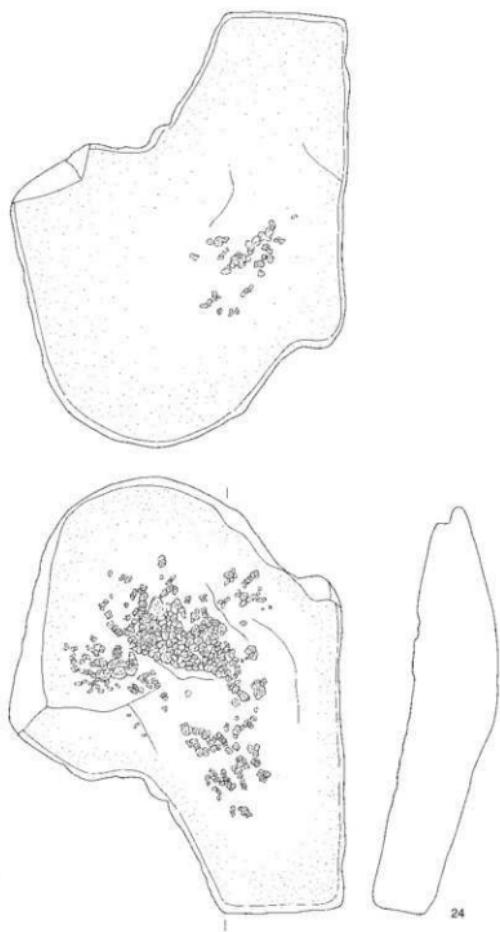
土器片が2点出土した。43を図示した。

#### SK117出土遺物（44）

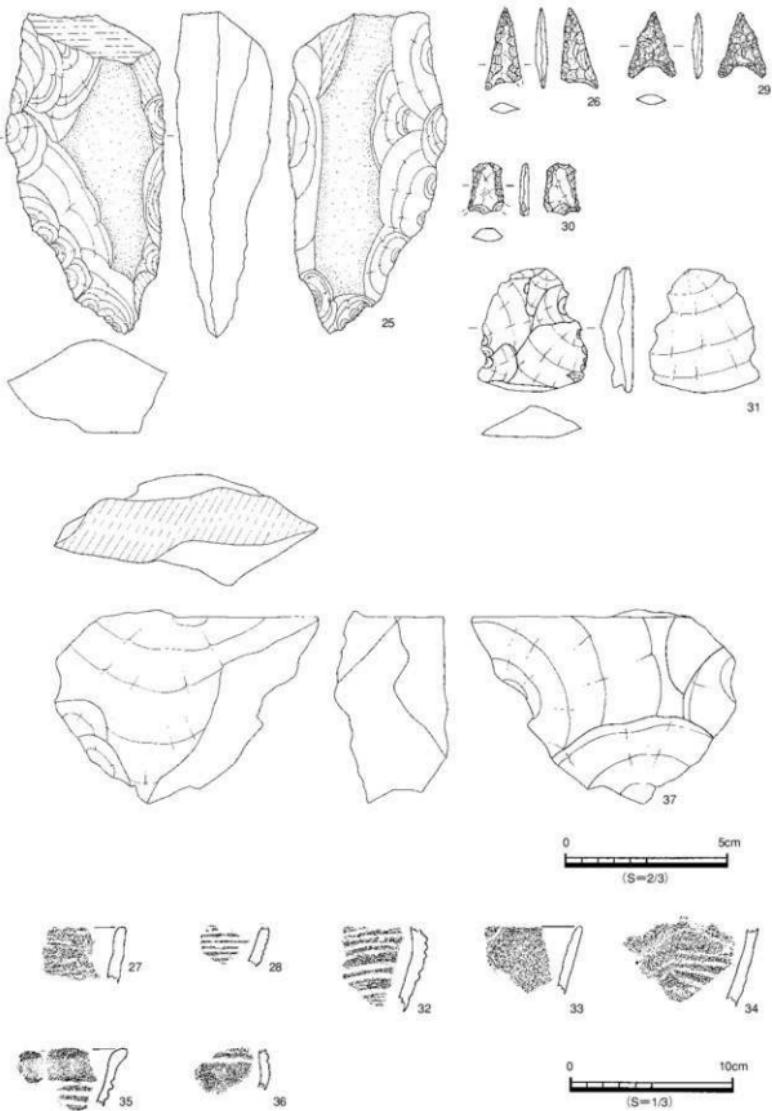
土器片が13点出土した。44は深鉢の脇部片である。外面には炭化物が付着している。縄文晩期の深鉢と考えられる。



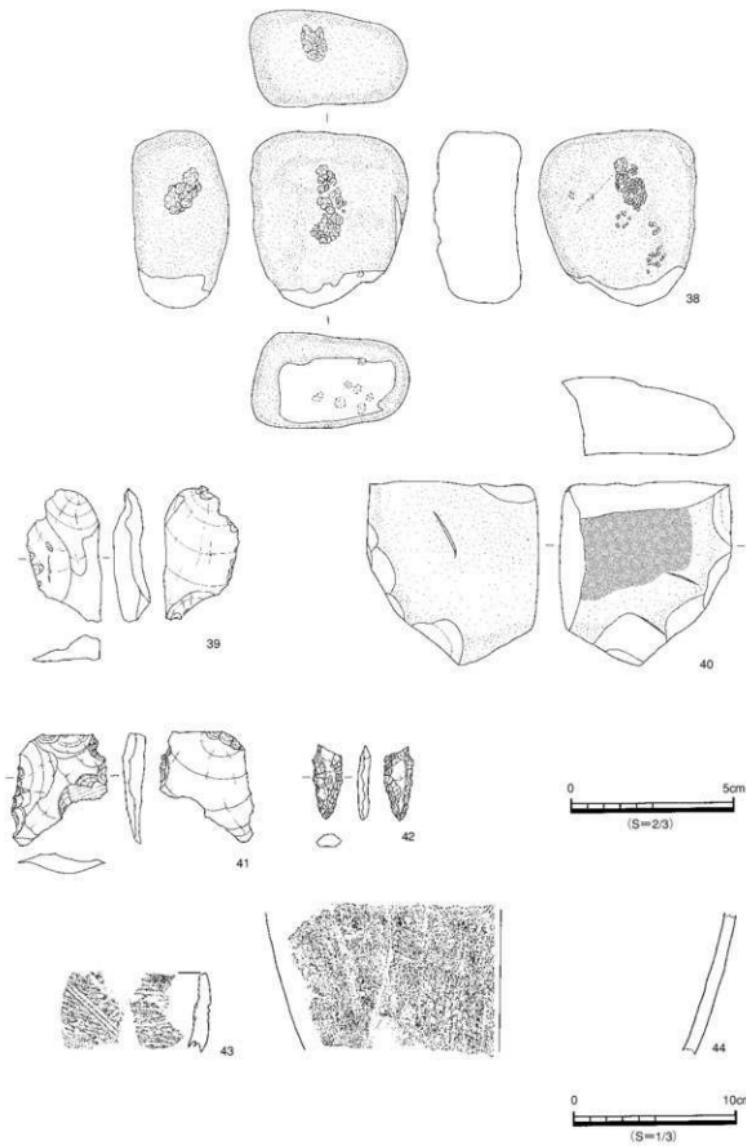
第29図 遺構内出土遺物（1）



第30図 遺構内出土遺物（2）



第31図 遺構内出土遺物（3）



第32図 遺構内出土遺物（4）

## 第5節 包含層出土の遺物

ここでは包含層（Ⅱ層・Ⅲa層・Ⅲb層・Ⅳa層直上）から出土した遺物95点（45～139）について掲載する。

### **土器類（45～92）**

出土した土器の殆どは極小な破片であり、器形の全体が判明するものは90・91の須恵器のみである。したがって縄文～弥生土器・土師器については器種・時代が細分できていないものが多い。

#### **a 縄文土器片（45～55）**

すべて小破片であり、11点を図示した。45・46は深鉢の口縁部片である。隆帯が施されており、縄文中期の遺物と考えられる。54・55は口縁が工具により押圧されている。

#### **b 弥生土器片（56～87）**

すべて小破片であり、32点を図示した。56は甕の口縁であり、口縁からやや下がった箇所に工具により突帯が施され、その下部には条痕文が確認できる。57は胴部破片で、胎土から56と同一個体と考えられる。58・59は羽状条痕文が施され、煤が付着している。胎土から60も同一個体となる考えられる。これらは胴部片であるため器種は不明である。61も羽状条痕文が施され、煤が付着している。62・63は条痕文のみが確認できるが出土地点・胎土から61とは同一個体になると考えられる。64～68は甕の口縁である。外面には条痕文、内面には刺突文が確認できる。刺突文の形状・胎土から64・65、66、67・68の3個体があると考えられる。69～73は条痕文の施された弥生土器片である。器種は明確にはできない。73の遺物は外側の条痕文がナデ消しされ、内面にも条痕文が確認できる。74は細頸壺である。多数の破片が接合したことにより、胴部の様相がほぼ判明した。肩部に櫛描直線文・波状文が見られる。内外面とも指ナデ後、ハケ調整が行われている。75の頸部片・76の胴部片も74から類推して細頸壺の一部とした。77～82は底部破片である。77～81には条痕文が確認できる。83～87については時期・器種ともに不明である。

#### **c 土師器（88・89）**

88は甕の口縁片、89は高坏の脚部片である。共に胎土は粗い。

#### **d 須恵器（90・91）**

調査区北東隅（M5～N5グリッド）、Ⅲa層から90と91が出土した。90は無蓋高坏、口縁部の大半が欠損している。口縁部は直線的に開き、端部は丸い。口縁部外側に2条の低い突帯がめぐり、端部は尖る。脚部は円筒部中位に2本1組の凹線をめぐらせ、この凹線を挟んで上下2段、2方向の透孔が配されている。焼成は硬質で胎土は僅かに細砂の混入が見られるが密である。91はその形状から竈と考えられる。口縁部・胴部の大半は欠損し、円孔は確認できない。胴部の上方と中央に凹線がめぐる。底部にはナデ調整が見られる。焼成は硬質で胎土は僅かに細砂の混入があるが密である。

#### **e 山茶碗ほか（92）**

山茶碗片が4点出土した。92は口縁部～体部が残存している破片である。胎土は均質で砂粒の少ない灰白色の北部系山茶碗で、明和1号窯期のものと判断した。

**石器類（93～139）**

包含層から出土した石器類の総数は266点である。剥片・碎片類が多く、全体の約78.5%を占めている。石器の器種が比較的少ないとから、弥生時代の様相を顕著に示していると考えられる。ここでは包含層から出土した石器について、器種毎に、分類の基準・確認点数・石材・その他の特徴などを記載する。

**a 石鎌（93～104）**

両面加工によって一端が尖頭状を呈するものを石鎌とした。石鎌10点、石鎌の未製品3点が出土した。そのうち石鎌9点、石鎌未製品3点を図示した。

基部の形態から凹状の抉りが入る凹基鎌（93～97）と茎を持つ有茎鎌（98～101）に分類した。基部が直線状になる平基鎌や基部が丸みをもつ円基鎌は出土していない。95・96は尖頭部の側縁部が意図して鋸歯状に調整されている。97は脚部の長い小型の凹基鎌である。94・96の石材は下呂石、93・95・97の石材はチャートである。98は尖頭部の先端が小さく尖り、側縁部の肩が張った形状をもつ。99は平面形が二等辺三角形で、100は丸く調整した基部から茎につながる。101は有茎鎌であるが、全体の調整が雑であるため未製品の可能性もある。98～100は下呂石、101はチャートである。102～104は石鎌の未製品と判断した。石材は、103は下呂石、102・104はチャートである。

**b 石錐（105）**

剥片の一端を錐状に調整してあるものを石錐とした。石錐に分類したものは105のみである。石材はチャートであり、上半部が欠損している。

**c スクレイバー（106～110）**

剥片を素材として、連続する二次加工により作出された刃部をもつものをスクレイバーとしたが、チャートを素材とした小型の粗製のものが多い。12点出土し、そのうち5点を図示した。石材はすべてチャートである。106以外は全体的に調整は粗い。109・110は抉り状の刃部をもつ。110は2箇所の刃部をもつものと判断したが、UF・剥片という可能性も否定できない。

**d 楔形石器（111～114）**

相対する2～3方向に潰れの確認できるものを楔形石器とした。11点出土し、そのうち4点を図示した。

**e 打製石斧（115～118）**

4点出土した。すべてに欠損が見られる。115・116は安山岩、117は溶結凝灰岩、118は花崗斑岩である。

**f 磨製石斧（119～122）**

4点出土した。121・122は直線刃石器の可能性もあるが、欠損・風化により断定は困難であるため石斧に含めた。

**g 石核（123～127）**

最終剥離面がネガティブな面であり、目的剥片を剥離していると考えられる石器を石核とした。石核と判断したものは11点で、そのうち5点を図示した。127から下呂石を円盤の状態で当遺跡に運び込んで加工している。それ以外の石核の石材はチャートである。

**h 剥片類 (128~134)**

長幅ともに1cm以上のものを剥片とし、1cmに満たないものは碎片として区別した。剥片121点、碎片87点が出土した。剥片はチャートが87点、下呂石が34点である。チャートの剥片5点(128~132)と下呂石の剥片2点(133・134)を図示した。

**i 凹石・磨石類 (135~137)**

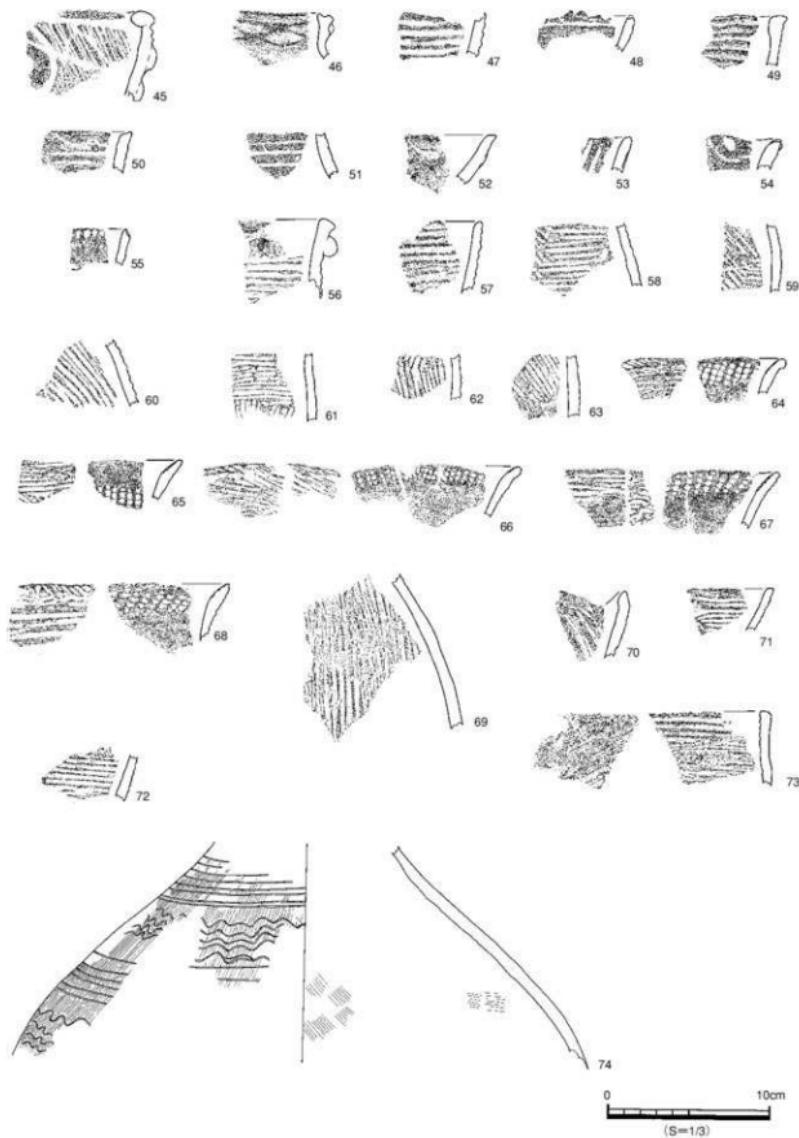
凹石は縛に敲打などによる凹みの確認できるもの、磨石は擦痕が明確に確認できる縛、あるいは擦痕は明確に確認できないが研磨行為によって形成されたと考えられる面を持つ縛とした。135・136は凹石、137は磨石である。石材はすべて安山岩である。

**j 石皿 (138)**

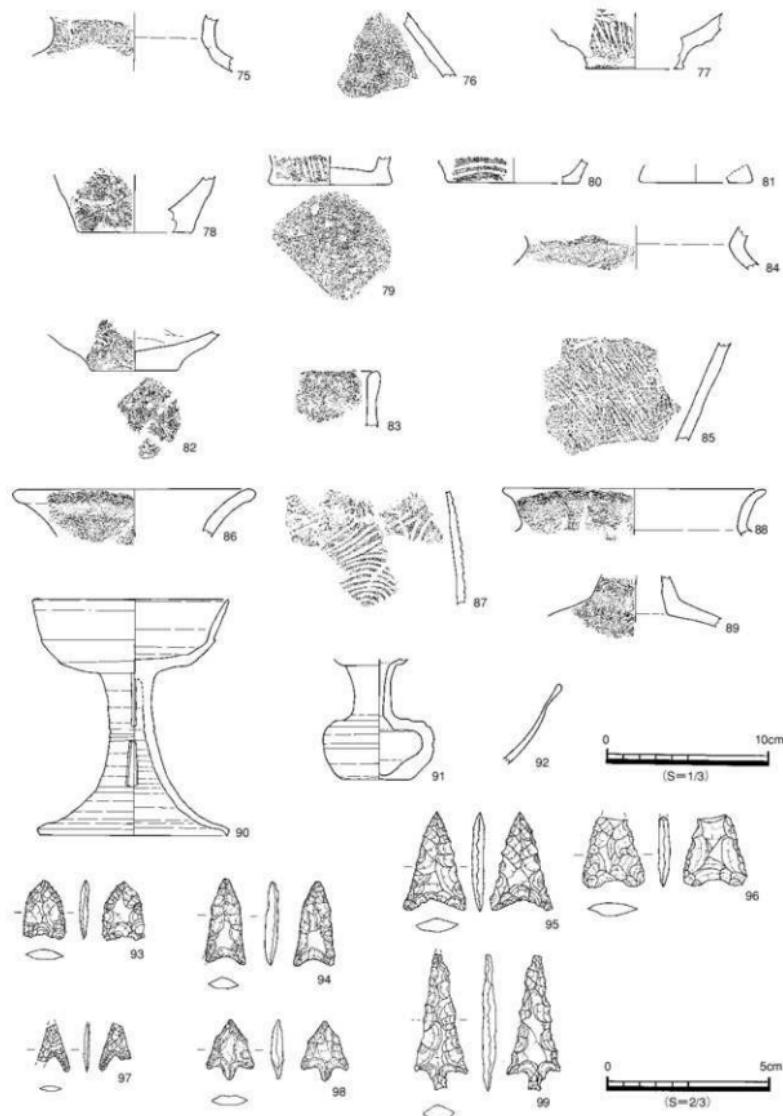
擦痕が確認できる大型の縛、若しくは擦痕は確認できないが研磨行為が考えられる面を持つ縛を石皿とした。石皿に分類したものは1点で、石材は安山岩である。

**k その他 (139)**

楔状縛石器で、石材は砂岩である。



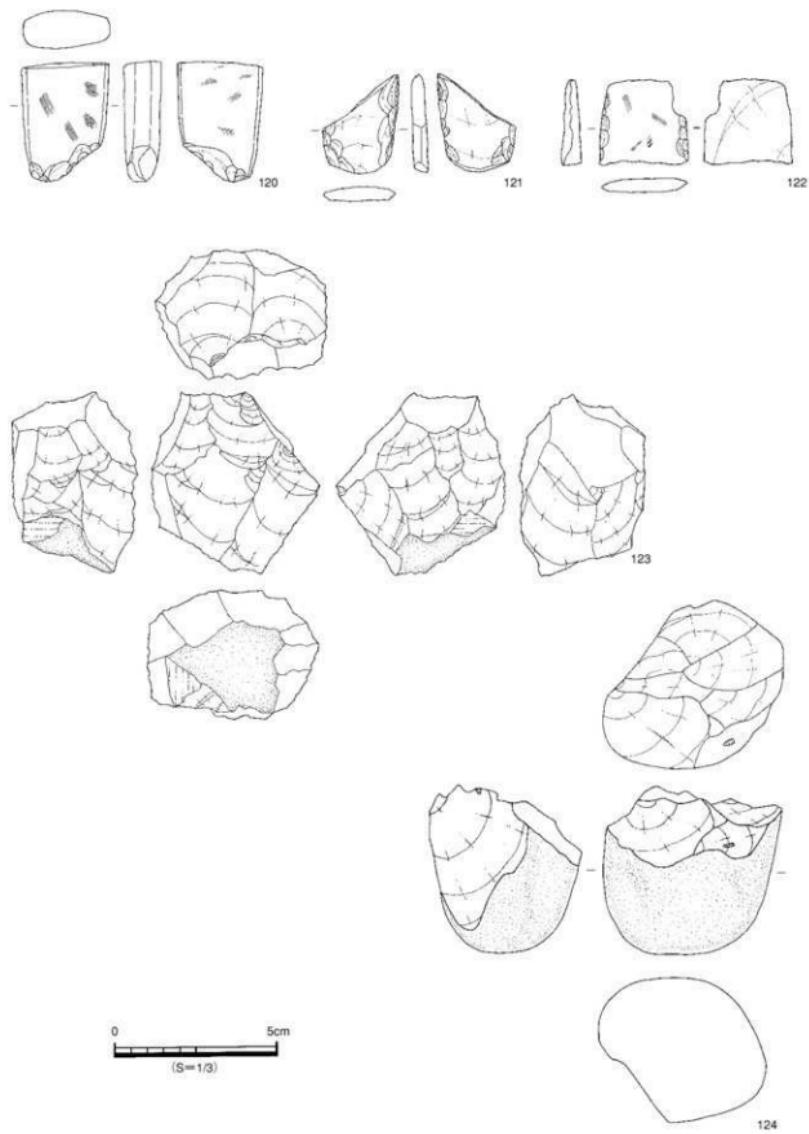
第33図 包含層出土遺物（1）



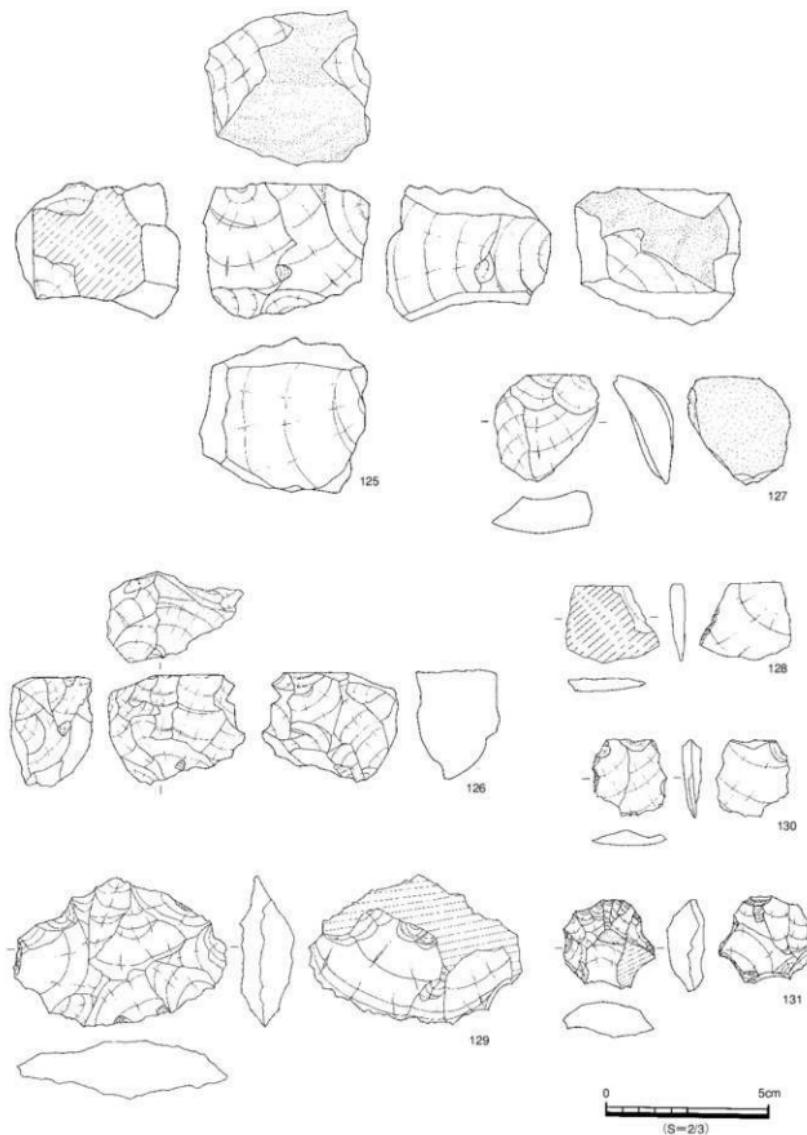
第34図 包含層出土遺物（2）



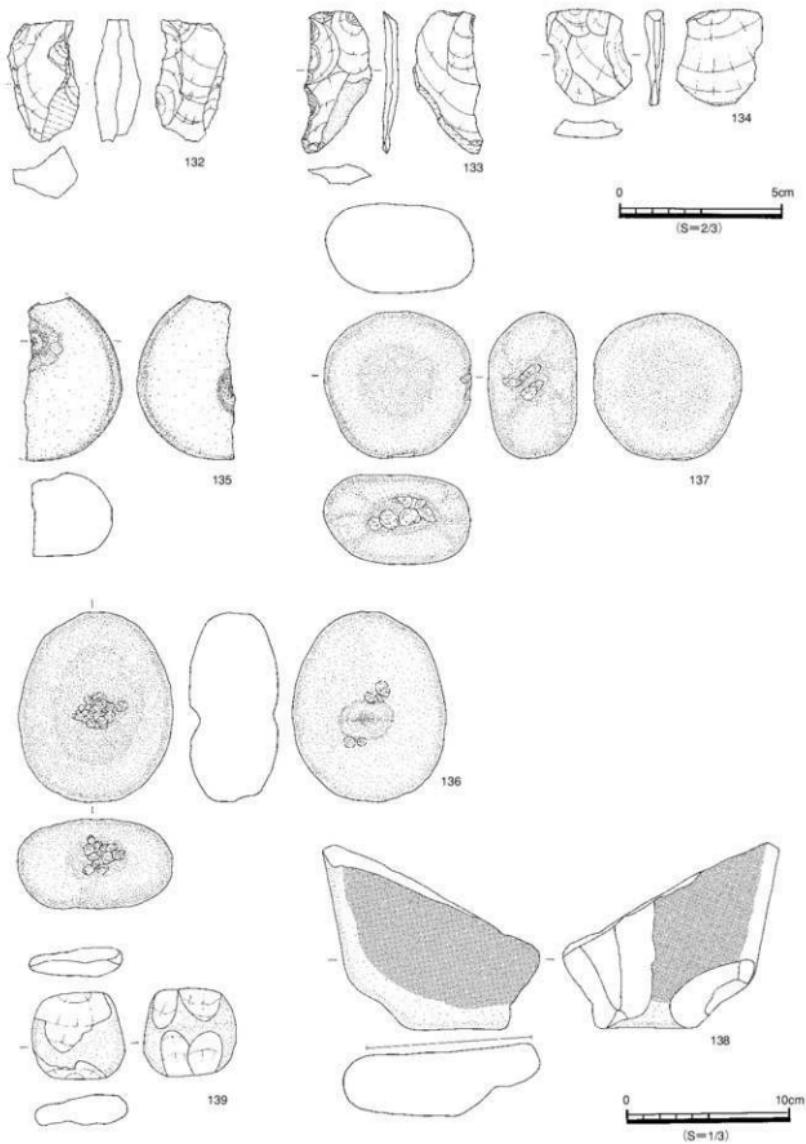
第35図 包含層出土遺物（3）



第36図 包含層出土遺物（4）



第37図 包含層出土遺物（5）



第38図 包含層出土遺物（6）

第4表 遺構一覧表(1)

遺構番号	検出層位	グリッド	規模(cm)						出土遺物	備考	押岡
			上部	底面	長軸	短軸	深さ				
SK 1	IIIa	D5	45	26	16	15	12	なし			13
SK 2	IIIa	D6	57	51	34	16	8	なし			13
SK 3	IIIa	D6	46	36	27	10	11	なし			13
SK 4	IIIa	F5	75	61	27	14	12	なし	縦(30cm程度)が2つ(チャート、川原石)入る。		13
SK 5	IIIa	G5	40	35	23	22	12	なし			13
SK 6	IIIa	G6	60	50	33	30	18	なし			14
SK 7	IIIa	G6	31	39	26	14	7	なし			14
SK 8	IIIa	G6	43	28	35	12	8	なし			14
SK 9	IIIa	E8	44	33	8	6	8	なし			14
SK 10	IIIa	H6	40	31	27	24	11	なし	縦(チャート、30cm程度)が1つ入る。		14
SK 11	IVa	A4	32	30	15	14	32	なし			20
SK 12	IVa	A5	23	20	18	12	10	なし			20
SK 13	IVa	A5	22	19	13	9	12	なし			20
SK 14	IVa	A5	22	18	15	11	17	なし			20
SK 15	IVa	A5	21	16	11	10	7	なし			20
SK 16	IVa	A5	22	18	12	8	14	なし			20
SK 17	IVa	A6	25	20	18	12	14	なし			20
SK 18	IVa	A6	27	24	8	6	16	なし			20
SK 19	IVa	B4	244	214	54	51	土器片123点・石器類44点 遺物掲載番号(6~22)		SK20に切られる。		16
SK 20	IVa	B4	280	153	150	51	20	土器片20点・石器類3点 遺物掲載番号(23~24)	SK19を切る。		16
SK 21	IVa	B4	190	78	168	47	19	土器片3点・石器類2点 遺物掲載番号(25)			20
SK 22	IVa	B4	35	24	20	15	22	なし			20
SK 23	IVa	B4	25	20	13	12	21	なし			20
SK 24	IVa	B4	25	18	16	11	10	なし			20
SK 25	IVa	B5	27	25	19	13	12	なし			20
SK 26	IVa	B5	23	15	16	10	10	なし			20
SK 27	IVa	B5	28	25	16	13	28	土器片1点・石器類1点			20
SK 28	IVa	B5	24	20	14	9	17	なし			20
SK 29	IVa	B5	28	26	18	12	21	なし			20
SK 30	IVa	B5	24	20	13	10	20	なし	試掘時に検出		
SK 31	IVa	B5	21	20	14	13	16	なし	試掘時に検出		
SK 32	IVa	B5	24	21	13	10	13	なし	試掘時に検出		
SK 33	IVa	B5	25	21	20	14	15	なし			20
SK 34	IVa	B5	20	14	15	10	21	なし			20
SK 35	IVa	B5	30	15	22	10	15	土器片3点			20
SK 36	IVa	B5	19	17	12	8	10	なし			20
SK 37	IVa	B5	24	18	8	6	12	なし			20
SK 38	IVa	B6	20	17	10	8	10	なし			20
SK 39	IVa	B6	20	17	6	6	8	なし			20
SK 40	IVa	B6	26	22	12	6	11	なし			20
SK 41	IVa	C2	24	22	27	19	16	なし			20
SK 42	IVa	C2	26	24	19	7	20	なし			20
SK 43	IVa	C2	35	24	18	15	18	なし			21
SK 44	IVa	C2	64	35	37	24	17	なし			21
SK 45	IVa	C3	30	29	29	20	11	土器片1点			21
SK 46	IVa	C3	35	24	14	9	22	なし			21
SK 47	IVa	C3	60	44	41	32	16	なし			21
SK 48	IVa	C3	38	31	32	22	8	石器類1点 遺物掲載番号(26)			21
SK 49	IVa	C3	20	10	10	24	なし				21
SK 50	IVa	C3	190	96	140	50	35	土器片19点・石器類12点 遺物掲載番号(27~31)			17
SK 51	IVa	C3	87	64	26	12	20	なし			21
SK 52	IVa	C4	164	115	72	42	48	土器片96点・石器類15点 遺物掲載番号(32~38)	東側は擾乱により壊されてい る。		17
SK 53	IVa	C4	20	17	14	10	18	石器類1点			21

第5表 遺構一覧表(2)

遺構番号	検出層位	グリッド	規模(cm)						出土遺物	備考	押因
			上部	底面	長軸	短軸	深さ				
SK 54	IVa	C 4	118	60	64	30	24	土器片25点・石器類3点 遺物掲載番号(39~40)			17
SK 55	IVa	C 4	28	20	16	12	14	なし			21
SK 56	IVa	C 4	64	56	36	34	16	土器片8点・石器類1点			21
SK 57	IVa	C 4	134	44	33	16	17	なし			18
SK 58	IVa	C 5	21	17	14	11	12	土器片9点・石器類4点			18
SK 59	IVa	C 5	36	24	22	8	22	土器片1点			21
SK 60	IVa	C 5	27	20	22	12	20	土器片6点・石器類1点 遺物掲載番号(41)			21
SK 61	IVa	C 5	24	16	16	10	15	なし			21
SK 62	IVa	C 5	19	14	12	9	24	なし			21
SK 63	IVa	C 5	20	18	14	14	18	なし			21
SK 64	IVa	C 5	22	21	12	11	15	なし			21
SK 65	IVa	C 5	26	23	18	10	12	なし			21
SK 66	IVa	C 5	33	20	18	12	14	なし			21
SK 67	IVa	C 5	20	17	12	8	8	なし			21
SK 68	IVa	C 5	22	20	12	11	22	なし			21
SK 69	IVa	C 5	23	17	16	10	10	なし			21
SK 70	IVa	C 6	27	20	15	9	11	なし			21
SK 71	IVa	C 6	26	21	18	14	18	なし			21
SK 72	IVa	C 6	20	15	8	8	15	なし			21
SK 73	IVa	C 6	23	22	15	10	8	なし			21
SK 74	IVa	C 6	20	19	12	10	10	なし			22
SK 75	IVa	C 6	27	20	12	8	12	なし			22
SK 76	IVa	C 6	23	18	12	10	11	なし			22
SK 77	IVa	C 6	30	25	17	14	14	なし			22
SK 78	IVa	C 7	90	65	68	55	24	なし			22
SK 79	IVa	D 3	26	21	11	8	14	なし			22
SK 80	IVa	D 3	25	23	16	15	14	なし			22
SK 81	IVa	D 3	32	25	20	27	27	なし			22
SK 82	IVa	D 3	35	32	9	8	14	なし			22
SK 83	IVa	D 3	65	37	45	23	13	土器片2点			22
SK 84	IVa	D 3	61	33	28	12	8	土器片3点			22
SK 85	IVa	D 3	55	32	28	12	16	土器片1点・石器類1点			22
SK 86	IVa	D 4	58	40	36	20	8	なし	SK87を切る。		22
SK 87	IVa	D 4	56	42	44	28	10	なし	SK86に切られる。		22
SK 88	IVa	D 4	30	24	21	15	20	なし			22
SK 89	IVa	D 4	34	25	9	7	16	なし			22
SK 90	IVa	D 4	30	10	7	7	28	なし			22
SK 91	IVa	D 4	127	114	118	100	12	土器片13点・石器類2点 遺物掲載番号(42)			22
SK 92	IVa	D 5	23	19	19	11	9	なし			22
SK 93	IVa	D 5	120	63	105	40	12	土器片2点			22
SK 94	IVa	D 6	21	18	12	7	14	なし			22
SK 95	IVa	D 8	84	45	68	36	14	石器類1点			22
SK 96	IVa	E 2	74	65	53	30	20	石器類1点	SK97を切る。 SK96に切られる。		22
SK 97	IVa	E 2	82	57	72	31	18	なし	SK98を切る。 SK97に切られる。		22
SK 98	IVa	E 2	50	45	38	28	21	なし	SK98を切る。 SK97に切られる。		22
SK 99	IVa	E 3	41	34	28	20	12	なし			22
SK 100	IVa	E 3	48	38	40	20	18	土器片2点			22
SK 101	IVa	E 4	35	18	12	10	18	土器片3点			23
SK 102	IVa	E 4	47	44	36	31	17	土器片1点・石器類1点			23
SK 103	IVa	E 4	24	22	14	13	9	なし			23
SK 104	IVa	E 4	22	20	13	12	10	なし			23
SK 105	IVa	D 5	42	36	26	18	14	なし			23
SK 106	IVa	E 5	178	87	86	52	32	なし			23

第6表 遺構一覧表(3)

遺構番号	検出層位	グリッド	規模(cm)						出土遺物	備考	押岡
			上部	底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
SK 107	I Va	E 5	67	41	56	34	10		なし		23
SK 108	I Va	E 5	63	26	25	24	16		土器片13点・石器類2点 遺物掲載番号(42)		23
SK 109	I Va	E 7	22	22	16	12	6		なし		23
SK 110	I Va	G 3	28	25	22	18	11		土器片2点 遺物掲載番号(43)		23
SK 111	I Va	F 4	15	15	7	6	16		なし		23
SK 112	I Va	F 4	21	19	15	11	13		石器類1点		23
SK 113	I Va	F 4	27	25	15	13	24		石器類1点		23
SK 114	I Va	F 4	28	20	14	14	6		なし		23
SK 115	I Va	F 4	29	22	20	14	10		土器片4点		23
SK 116	I Va	F 4	22	20	16	12	16		なし		23
SK 117	I Va	F 4	58	35	45	20	14		土器片13点 遺物掲載番号(44)		23
SK 118	I Va	E 4	22	20	10	8	11		なし		23
SK 119	I Va	F 5	48	36	18	18	18		なし		23
SK 120	I Va	F 7	22	20	16	14	16		なし		23
SK 121	I Va	G 2	21	18	12	8	15		なし		23
SK 122	I Va	G 2	168	103	76	48	28		なし		23
SK 123	I Va	G 3	62	50	48	38	6		なし	チャート(20cm程度)が2つ 入る。	24
SK 124	I Va	G 3	60	35	49	25	5		なし	チャート(20cm程度)が1つ 入る。	24
SK 125	I Va	G 3	29	21	12	10	7		なし		24
SK 126	I Va	G 3	28	17	15	10	15		なし		24
SK 127	I Va	G 3	17	15	10	6	13		なし		24
SK 128	I Va	G 4	68	32	12	12	6		土器片1点		24
SK 129	I Va	G 4	67	55	20	12	8		なし		24
SK 130	I Va	G 4	17	13	9	6	11		なし		24
SK 131	I Va	G 5	36	22	21	14	14		なし		24
SK 132	I Va	G 5	26	24	18	14	6		なし		24
SK 133	I Va	G 5	27	20	18	12	12		なし		24
SK 134	I Va	G 6	60	32	48	18	10		なし		24
SK 135	I Va	H 3	22	10	12	8	15		なし		24
SK 136	I Va	H 3	40	29	27	13	12		なし		24
SK 137	I Va	H 3	34	30	18	16	12		なし		24
SK 138	I Va	H 3	24	23	16	8	6		なし		24
SK 139	I Va	H 4	42	28	16	15	18		なし		24
SK 140	I Va	H 4	24	21	16	14	8		なし		24
SK 141	I Va	H 5	68	16	56	10	12		なし		24
SK 142	I Va	H 5	20	17	15	24	12		なし		24
SK 143	I Va	H 6	20	20	16	14	14		なし		24
SK 144	I Va	I 3	24	19	12	10	5		なし		24
SK 145	I Va	I 3	34	28	16	9	16		なし		24
SK 146	I Va	I 4	42	24	16	14	24		なし		24
SK 147	I Va	I 6	48	40	28	10	10		なし		24
SK 148	I Va	J 6 J 7	75	30	46	18	18		なし		24
SK 149	I Va	J 6	45	30	18	9	24		なし		24
SK 150	I Va	J 7	18	30	22	17	10	15	なし		24
SK 151	I Va	J 8	73	56	55	34	11	土器片1点			25
SK 152	I Va	J 4	41	29	18	10	11		なし		25
SK 153	I Va	J 3	24	22	16	16	18		なし		25
SK 154	I Va	J 3	27	19	16	9	11		なし		25
SK 155	I Va	J 4	26	20	12	10	8		なし		25
SK 156	I Va	J 5	30	28	14	12	14		なし		25
SK 157	I Va	J 5	32	23	12	10	18		なし		25
SK 158	I Va	J 6	18	10	10	8	8		なし		25

第7表 遺構一覧表(4)

遺構番号	検出層位	グリッド	規模(cm)						出土遺物	備考	押岡			
			土面		底面		漂さ							
			長幅	短幅	長幅	短幅								
SK 159	IVa	J6	34	22	16	14	12	なし			25			
SK 160	IV	J6	18	14	10	7	8	なし			25			
SK 161	IVa	J7	43	40	30	28	30	なし			25			
SK 162	IVa	J7	22	16	10	8	12	なし			25			
SK 163	IVa	J8	20	16	10	6	12	なし			25			
SK 164	IVa	J8	27	18	12	9	10	なし			25			
SK 165	IVa	J8	25	20	19	12	12	なし			25			
SK 166	IVa	J8	30	23	14	10	32	なし			25			
SK 167	IVa	J8	24	22	14	10	10	なし			25			
SK 168	IVa	K4	38	31	24	21	10	なし			25			
SK 169	IV	K4	29	26	21	17	6	なし			25			
SK 170	IVa	K4	37	29	26	19	9	なし			25			
SK 171	IVa	K4	63	28	20	14	16	なし			25			
SK 172	IVa	K4	60	45	18	10	22	なし			25			
SK 173	IVa	K4	46	36	20	18	23	なし			25			
SK 174	IVa	K9	38	48	26	19	12	なし			25			
SK 175	IVa	K9	32	24	18	14	8	なし			25			
SK 176	IVa	M7	50	32	15	15	7	なし			19			
SK 177	IVa	N6	32	30	24	22	5	なし			19			
SK 178	IVa	O6	32	26	28	16	12	なし			19			
SK 179	IVa	O6	33	22	15	12	10	なし			19			
SK 180	IVa	O6	155	84	52	48	27	なし			19			
SK 181	IVa	O7	78	34	58	22	5	なし			19			
SX 1	IIIb	A5 B5	70	48	55	35	10	なし	焼土		14			
SX 2	IIIb	C5	60	38	50	30	7	なし	焼土		14			
SX 3	IIIa	K4						なし	石組み					
SX 4	IIIa	K7 L7						なし	石組み					
SX 5	IIIa	K8						なし	石組み					
SX 6	IIIa	M5 M6						なし	石組み					
SX 7	IIIa	N5						この付近から土師器片、須恵器片が集中して出土した。遺物掲載番号(90・91)。	石組み					
HA 2	IIIa	G8	八幡前2号古墳				土師器片・須恵器片・鉄錆 遺物掲載番号(1~5)				9・10			

第8表 遺物觀察表(土器1)

第9表 遺物觀察表(土器2)

困難 番号	種類	形態	寸法			測定(cm)	色調(外側)	色調(内面)	形状・調査(外側)	備考	解説	
			口径	晋高	底径							
61 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	5YR 7/4	条状・	内外面に赤化物付着	
62 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	5YR 7/4	条状・	内外面に赤化物付着	
63 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	明赤褐色	5YR 5/6	条状・	内外面に赤化物付着	
64 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	5YR 5/4	条状・	内外面に赤化物付着	
65 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	5YR 7/3	条状・	内外面に赤化物付着	
66 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	5YR 7/3	条状・	内外面に赤化物付着	
67 強生・器	L5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	5YR 7/6	条状・	内外面に赤化物付着	
68 強生・器	N5	アリット・直筒	—	—	—	—	良	1.-赤い・赤褐色	7.5YR 6/4	瘤状・	内外面に赤化物付着	
69 強生・器	K5	アリット・直筒	■b	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 7/4	条状・	内外面に赤化物付着	
70 強生・器	B5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 8/4	条状・	内外面に赤化物付着	
71 強生・器	B4	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 6/2	瘤状・	内外面に赤化物付着	
72 強生・器	A5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 7/1	瘤状・	内外面に赤化物付着	
73 強生・器	C4	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 7/4	瘤状・	内外面に赤化物付着	
74 土陶器	板	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 5/3	条状・	内外面に赤化物付着	
75 土陶器	N5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	2.5YR 7/3	瘤状・	内外面に赤化物付着	
76 土陶器	C5	アリット・直筒	■b	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 6/4	条状・	内外面に赤化物付着	
77 強生・器	C4	アリット・直筒	■a	—	(3.0)	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 7/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
78 強生・器	K11	アリット・直筒	■a	—	(6.5)	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 4/2	瘤状・	内外面に赤化物付着	
79 強生・器	M6	アリット・直筒	■a	—	(7.6)	—	良	1.-赤い・黄褐色	5YR 6/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
80 強生・器	B5	アリット・直筒	■a	—	(4.0)	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 5/3	瘤状・	内外面に赤化物付着	
81 強生・器	N5	アリット・直筒	■a	—	(7.0)	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 6/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
82 強生・器	N5	アリット・直筒	■a	—	(5.5)	—	良	1.-赤い・黄褐色	2.5YR 5/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
83 強生・器	K9	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 3/3	瘤状・	内外面に赤化物付着	
84 強生・器	N5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 5/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
85 強生・器	F8	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 6/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
86 強生・器	D4	アリット・直筒	■a	(15.0)	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 4/3	瘤状・	内外面に赤化物付着	
87 強生・器	C2	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	10YR 4/3	瘤状・	内外面に赤化物付着	
88 強生・器	N5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	1.-赤い・黄褐色	7.5YR 7/6	瘤状・	内外面に赤化物付着	
89 土陶器	高杯	アリット・直筒	■a	(12.0)	14.5	(11.5)	—	良	灰白	2.5YR 7/1	球状・	内外面に赤化物付着
90 朝唐器	N5	アリット・直筒	■a	(4.2)	7	(4.1)	6	良	灰白	10YR 7/1	球状・	内外面に赤化物付着
91 朝唐器	M5	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	灰白	10YR 7/1	球状・	内外面に赤化物付着	
92 山茶碗	E6	アリット・直筒	■a	—	—	—	良	灰白	10YR 7/1	球状・	内外面に赤化物付着	

第10表 遺物観察表（石器1）

掲載番号	器種	グリッド・遺構	部位	形態	石材	備考	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	持国	団版
4	石鏃	G8	HA2	幕墳埋土 有茎縫	チャート		27.5	11.2	3.9	1.1	12	7
5	スクレイバー	G8	HA2	幕墳埋土	チャート		26.5	52.5	9.5	16.3	12	7
13	石鏃	B4	SK19		下呂石	基部欠	26.3	17.0	3.5	1.6	26	7
14	石鏃	B4	SK19	未製品	下呂石		17.5	13.2	2.9	0.7	26	7
15	スクレイバー	B4	SK19		チャート		25.2	25.5	5.8	3.8	26	7
16	スクレイバー	B4	SK19		チャート		21.0	26.5	5.3	3.0	26	7
17	石核	B4	SK19	円錐	下呂石		27.5	28.0	15.5	10.9	26	7
18	剥片	B4	SK19		下呂石		30.0	25.5	9.0	6.6	26	7
19	剥片	B4	SK19		下呂石		22.0	22.8	5.6	3.4	26	7
20	剥片	B4	SK19		下呂石	ヘラ形石器の可能性あり	35.0	14.0	4.5	2.8	26	7
21	石鍤	B4	SK19		砂岩		50.5	39.2	15.8	41.4	26	7
22	敲石	B4	SK19		砂岩		92.8	30.5	16.5	76.0	26	7
24	台石	B5	SK20		砂岩		202.0	247.0	51.0	382.0	27	8
25	不明	B4	SK21		チャート	上部欠	99.0	48.0	28.5	135.3	28	8
26	石鏃	C3	SK48	凹基縫	下呂石	基部片側欠	25.0	10.5	3.0	0.6	28	8
29	石鏃	C3	SK50	凹基縫	チャート	完形	25.0	13.5	3.0	0.7	28	8
30	石鏃	C3	SK50	未製品	下呂石		16.2	10.5	4.0	0.7	28	8
31	スクレイバー	C3	SK50		チャート		39.0	33.0	9.5	10.7	28	8
37	石核	C4	SK52		安山岩	半欠	59.0	74.5	32.0	136.8	28	8
38	凹石	C4	SK52		安山岩		105.0	96.0	50.0	890.0	29	8
39	スクレイバー	C4	SK54		チャート		41.0	22.0	7.2	7.7	29	8
40	石皿	C4	SK54		チャート		111.5	104.0	47.0	720.0	29	8
41	スクレイバー	C5	SK60		チャート		34.0	28.0	5.3	5.8	29	8
42	石鎌	D5	SK91		チャート	上部欠	22.8	9.0	4.0	0.9	29	8
93	石鏃	B3	IVa	凹基縫	チャート	完形	18.5	13.0	3.0	0.8	31	11
94	石鏃	G6	IIIa	凹基縫	下呂石	はい形存	21.0	11.8	3.5	1.1	31	11
95	石鏃	C2	IVa	凹基縫	チャート	完形	31.0	28.5	4.0	1.7	31	11
96	石鏃	試掘トレンチ (TR 8)	IVa	凹基縫	下呂石	上部欠	21.5	19.3	4.0	1.4	31	11
97	石鏃	O6	IIIa	凹基縫	チャート	上部・左側基部欠	15.0	9.5	1.5	0.2	31	11
98	石鏃	E6	IIIa	有茎縫	下呂石	完形	18.3	15.0	3.0	0.7	31	11
99	石鏃	C5	IVa	有茎縫	下呂石	上部欠	42.0	16.5	4.5	2.2	31	11
100	石鏃	N6	IIIa	有茎縫	下呂石	完形	31.0	11.5	5.5	1.7	32	11
101	石鏃	C5	II	有茎縫	チャート	完形	25.0	14.5	6.0	1.9	32	11
102	石鏃	K7	IIIa	未製品	チャート		29.0	22.5	6.7	5.0	32	11
103	石鏃	B3	IVa	未製品	下呂石		32.3	19.5	7.0	4.7	32	11
104	石鏃	F9	IIIa	未製品	チャート		30.0	12.5	3.2	2.2	32	11
105	石鎌	H8	IIIa	チャート	上部欠		17.5	7.0	3.8	0.4	32	11
106	スクレイバー	J6	IIIa	チャート			29.5	29.5	8.0	9.7	32	11
107	スクレイバー	C4	IVa	チャート			23.0	25.0	5.8	3.7	32	11
108	スクレイバー	C6	IVa	チャート			21.0	23.0	6.0	2.7	32	11
109	スクレイバー	D4	IVa	チャート			42.0	26.0	8.0	8.8	32	11
110	スクレイバー	試掘トレンチ (TR 8)	IVa	チャート			42.0	32.0	6.8	16.3	32	11
111	楔形石器	E3	IVa	チャート			17.0	17.0	9.0	3.7	32	11
112	楔形石器	E4	IVa	チャート			37.0	22.5	12.3	10.0	32	11
113	楔形石器	E2	IVa	チャート	下呂石		29.0	24.8	4.5	4.6	32	11
114	楔形石器	C5	IVa	チャート			18.3	21.5	4.8	2.7	32	11
115	打製石斧	E3	IVa	チャート	安山岩		49.5	38.0	10.5	43.3	32	11
116	打製石斧	B3	IVa	チャート	安山岩		80.0	44.5	20.5	105.6	32	11
117	打製石斧	試掘トレンチ (TR 8)		溶結凝灰岩			70.5	48.5	26.0	117.4	32	11
118	打製石斧	J9	IIIa	花崗岩			81.0	72.0	37.0	241.5	32	11
119	磨製石斧	N5	IVa	チャート	安山岩		73.5	35.0	25.5	92.8	32	12
120	磨製石斧	E2	IVa	ドレライト			57.5	53.0	23.0	140.0	33	12
121	磨製石斧	F8	IIIa	ホルンフェルス	半欠、直線刃石器の可能性あり		51.0	44.5	8.8	33.8	33	12
122	磨製石斧	C6	IIIa	溶結凝灰岩	半欠、直線刃石器の可能性あり		52.0	53.5	8.0	40.6	33	12

第11表 遺物観察表（石器2）

掲載番号	器種	グリッド・遺構	層位	形態	石材	備考	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	挿図	図版
123	石核	F5	IVa		チャート		55.0	52.0	39.0	130.9	33	12
124	石核	B6	IIIb		チャート		51.0	53.0	44.0	168.0	33	12
125	石核	K3	IIIa		チャート		41.5	51.0	48.0	148.0	34	12
126	石核	K8	IVa		チャート		34.0	42.0	25.0	39.6	34	12
127	石核	E5	IVa	円錐	下呂石		33.5	31.0	11.1	14.1	34	12
128	剥片	E8	IIIa		凝灰質泥岩		24.0	23.0	4.0	3.2	34	12
129	剥片	15	IIIa		チャート		46.2	64.0	17.8	45.3	34	12
130	剥片			試掘トレンチ (TR 8)	チャート		24.5	22.0	4.8	2.7	34	12
131	剥片	L4	IIIa		チャート		28.5	28.0	10.5	9.0	34	12
132	剥片	M4	IVa		チャート		38.0	19.0	15.0	10.8	35	12
133	剥片	C7	IIIa		下呂石		44.0	19.5	6.0	6.1	35	12
134	剥片			試掘トレンチ (TR 8)	下呂石		30.0	23.5	5.8	5.2	35	12
135	凹石	C6	IIIa		安山岩		99.0	58.5	51.0	432.0	35	12
136	凹石	C6	I		安山岩		106.0	94.0	54.0	840.0	35	12
137	磨石	14	I		安山岩		89.5	90.0	54.0	643.0	35	12
138	石皿	K7	IIIa		安山岩		101.3	121.0	3.9	654.0	35	12
139	楔状鑿石器	E7	IVa		砂岩		52.5	56.5	17.5	73.6	35	12

第12表 遺物観察表（鉄製品）

掲載番号	器種	グリッド・遺構	層位	備考	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	挿図	図版			
3	鉄鎌	G8	HA2	2区・床直上	2点に分離している。			10.7	1.8	0.3	1.0	12	7

第13表 石器出土表

種別	I層	II層	IIIa層	IIIb層	IVa層	トレンチ	HA2	SK19	SK20	SK21	SK48	SK50	SK52	SK54	SK60	SK91	計
石鏃		1	4	1	3	1	1	1				1					14
石鏟						1											2
スクレイパー		2	1	3	4	2	1	5				1		1	1		21
楔形石器			1	3	4	3			1			1					13
打製石斧			1		2	1											4
磨製石斧			2		2												4
石核			4	2	5		1					1					13
剥片	15	17	36	35	10	6	3	31	2		9	12	1		1		178
石錐								1									1
敲石								1									1
磨石・凹石	2		1									1					4
台石								1									1
石皿			1									1					2
未製品			2		1			1				1					5
楔状鑿石器					1												1
不明							1	1		1							3
計	17	20	53	44	32	14	6	42	3	2	1	12	15	3	1	2	267

## 第4章 まとめ

### 1. 八幡前2号古墳について

今回の調査で発見した八幡前2号古墳は、松鞍山（標高316.3m）南西麓の、北に向かって高まる非常に緩やかな斜面上に築かれた、横穴式石室を持つ古墳である。後世に畠に造成されたため、古墳の墳丘・側壁石などは削平されており、古墳が存在することによる地形の起伏は見られなかった。（畠の造成により、当時の地形が、かなり改変されている可能性もある。）

さらに、後世の搅乱が激しく、石室は断続する基底石のみの検出にとどまり、床面も完存しておらず、玄室・羨道の境も明確にし得なかった。また、通常は古墳の裾に設置される外護列石も検出できなかった。主体部東側の搅乱も激しかったが、辛うじて周溝（幅約1.7m）の一部分が極めて僅かではあるが、検出できたことにより、その規模は直径約14m前後の円墳と推定した。

石室内からは土師器鉢（1）、須恵器片（2）、鐵鎌（3）が出土した。出土した遺物の様相や出土量が少ないとことから、八幡前2号古墳の築造年代については6世紀末～7世紀前半の古墳時代後期と推定することが可能である。八幡前2号古墳から東方約500mの地点に、7世紀前半に築造された塚穴古墳群（塚穴1号古墳・塚穴2号古墳）が所在する。それらと八幡前2号古墳とを比較したのが第7表である。八幡前2号古墳は搅乱により、明確なデータが得できていない箇所が多いが、墳丘・石室の規模としては際だった差は見られず、塚穴古墳群とは同様な石室の構造であると考えられる。

また、この古墳は群集墳を構成し、その一つとして成立しているものと推測している。調査区内においては八幡前2号古墳1基のみの検出であったが、今回の発見により、周辺にも古墳がある可能性が高いと考えられる。調査区の北東側ではSX4～SX7を検出した。その中でも特にSX6とSX7は、第35図に示したように、その付近からのみ須恵器片が集中して出土した。（調査区南東側にも須恵器の出土が見られるが、当時の地形から、これらは斜面上方から流れ落ちたものと推測できる。）これらの須恵器片は、無蓋高壺（90）・甕（91）などの全体の器形の判明する遺物に接合し得た。これらの遺物は、八幡前2号古墳から東方約500mの地点に所在する塚穴古墳群から出土した遺物の様相と似通っている。したがって、SX6とSX7は、崩壊した古墳の石材という可能性が非常に高く、八幡前2号古墳との関連が推測できる。

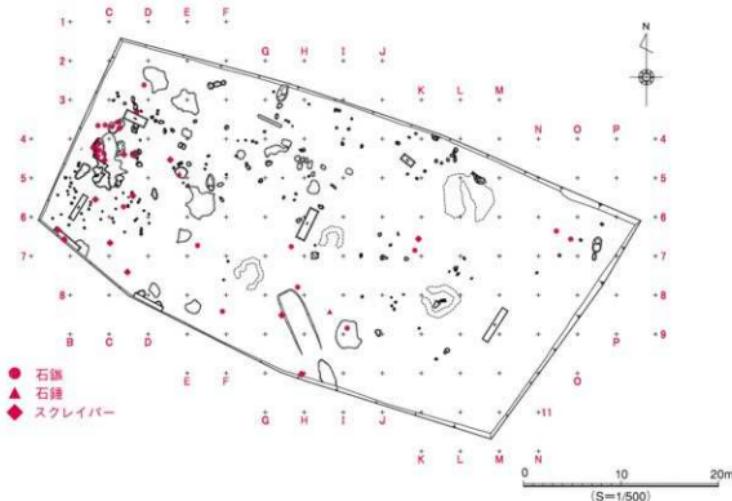
現在のところ、美濃市内の後期古墳の発掘調査例は少ない。また、現在までに削平されたり、崩壊している古墳も多く、全容を知ることのできる古墳は非常に乏しい状態にある。古墳の集中する松森地区の個々の古墳でも、平成3年度に塚穴古墳群（塚穴1号古墳・塚穴2号古墳）のみが調査されているのみである。今回の調査では、松森古墳群をはじめ、美濃市域及びその周辺域の後期古墳の特徴や様相を知るうえで良好な資料が得られたと考えている。

第14表 八幡前2号古墳と塚穴古墳群の法量一覧

		八幡前2号古墳	塚穴1号古墳	塚穴2号古墳
墳丘	径	14.0m前後	12.0m前後	12.0m前後
	高さ	不 明	2.5m	1.5m~3.0m
石室	プラン	無袖式	両袖式	無袖式
	長さ	7.2m前後	8m前後	7.3m前後
玄室	長さ	不 明	4.15m~4.2m	3.3m~3.5m
	幅	0.9m~1.4m程度	1.0m~1.45m	1.4m~1.7m
	高さ	不 明	2.2m前後	1.9m前後
羨道	長さ	不 明	3.75m	3.45m~3.87m
	幅	1.2m程度か	1.0m~1.5m	1.0m~1.6m
	高さ	不 明	1.8m~1.95m	1.4m~1.6m
周溝	幅	1.7m	4.0m	不 明
	深さ	0.1m	0.9m	不 明



第39図 須恵器破片出土状況図



第40図 石器出土状況図（1）



第41図 石器出土状況図（2）



第42図 石器出状況図（3）

## 2. 八幡前遺跡の遺構・遺物について

古墳以外では土坑を多數確認した。SK20・SK93のように、埋土上に石を置いている遺構があること、SK19・SK52のように多くの遺物を内包していること、周囲より標高の高くなつた南向き斜面にあることから、今回の調査範囲は墓域としての土地利用の可能性が推測できる。

遺物出土量は破片点数が約1,500点である。殆どが摩耗した小破片であり、接合できたものは少ない。土器片については縄文時代中期～晚期、弥生時代前期～中期、古墳時代、また、量は非常に少ないが鎌倉時代の山茶碗や近世陶器が出土している。その中でも弥生時代前期～中期の土器片が大部分を占める。石器については、その種類が少なく縄文時代晚期～弥生時代の様相が強くあらわれている。以上から、この八幡前遺跡のこの場所は縄文時代晚期から弥生時代中期にかけて、人間の活動が多く行われた場所であるといえる。

参考に石器の出土分布を器種毎に示してみると第40図～第42図のようになり、調査区の西側において出土の集中が見られる。調査区東側については、石器をはじめ土器片なども遺構面直上より流土層からの出土が多く、調査区内の遺物ではなく斜面上方から流れ落ちてきた可能性が高いものと推察できる。また、これらの遺物が出土した層も調査区北側において遺物の出土が多い傾向があることを考え合わせると、集落の中心は当遺跡の斜面上方にある可能性が指摘できる。

今回の調査は南北290m・東西350mの規模をもつ広大な八幡前遺跡の一部分のみの調査ではあるが、後世に亘り、周辺の各遺跡の調査成果が集積していくなかで、今回の調査の成果がその一助としての役割を果たすことを期待したい。

### 参考文献

- 美濃市 1979『美濃市史 通史編上巻』
- 財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 1995『下巾上遺跡』(調査報告書 第24集)
- 財團法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2004『一本杉・茶屋下・改田遺跡 栗坪遺跡』(調査報告書 第86集)
- 美濃市教育委員会 1993『塚穴古墳群発掘調査報告書』
- 美濃古墳文化研究会 1992『美濃の後期古墳』
- 美濃市教育委員会 1999『美濃市遺跡分布地図』(美濃市文化財調査報告 第12号)



2回の空撮画像を合成（上が西）

遺跡全景（合成写真）

図版 2



調査区遠景（西から）



調査区遠景（東から）



調査区遠景（北から）



調査区遠景（南から）



松鞍山と調査区



調査前風景（南東から）



調査前風景（北東から）



調査前風景（西から）

遺跡遠景・調査前風景



調査区（東側・北側）（上が南）



調査区（西側）（上が南）

遺跡全景

図版 4



八幡前 2 号古墳



床面まで完掘



断ち割り後



排水溝（東から）



排水溝（北から）

八幡前 2 号古墳（1）

図版5



基底石（側壁西側）



床面の状況（東から）



遺物の出土状況（南から）



周溝断面（調査区南壁）



周溝（南から）



周溝（東から）



SX 5（東から）



SX 6（南から）

八幡前2号古墳（2）

図版 6



SK20・SK19 (南から)



SK20 (東から)



SK20 (東から)



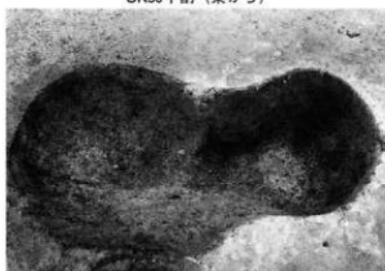
SK19 (東から)



SK50半割 (東から)



SK50完掘 (東から)



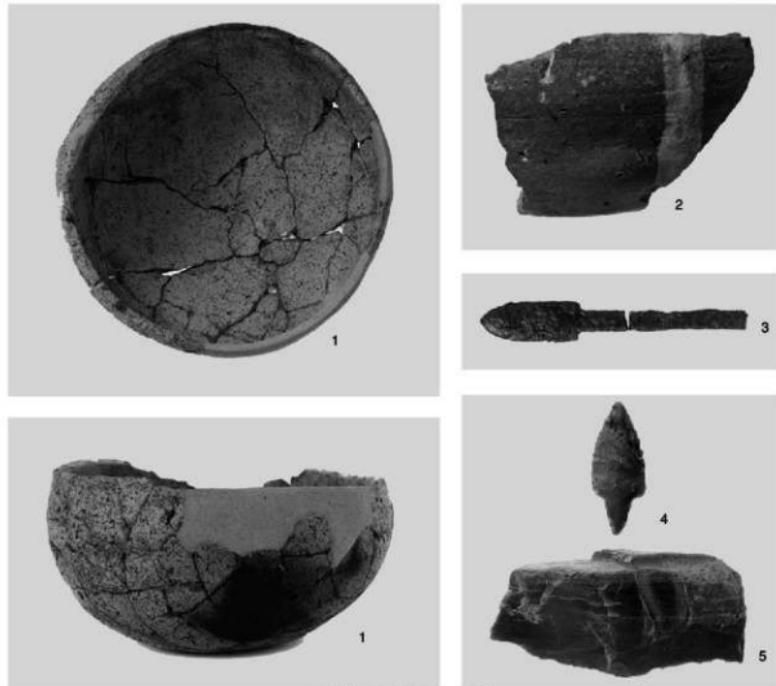
SK54 (東から)



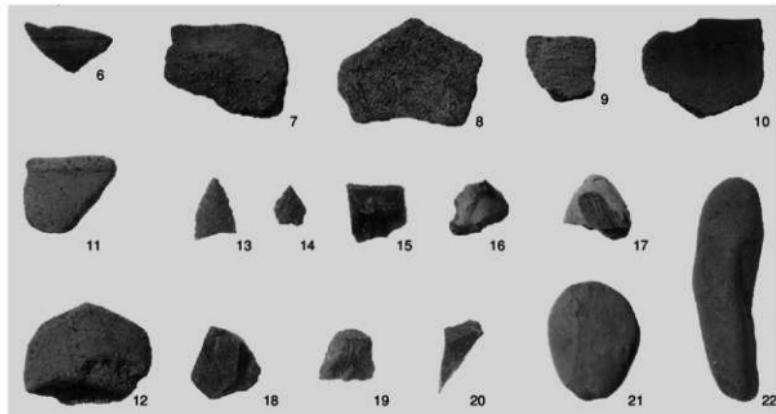
SK93 (東から)

IVa層上面の遺構

図版 7

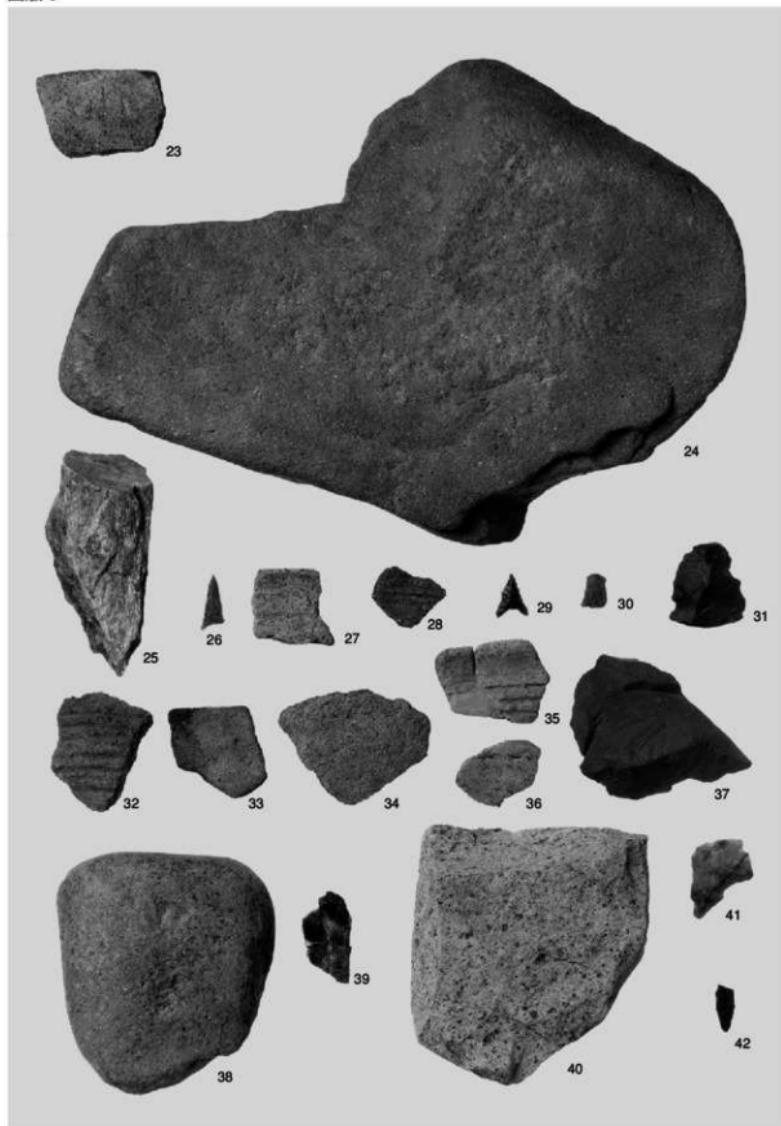


八幡前 2 号古墳の出土遺物

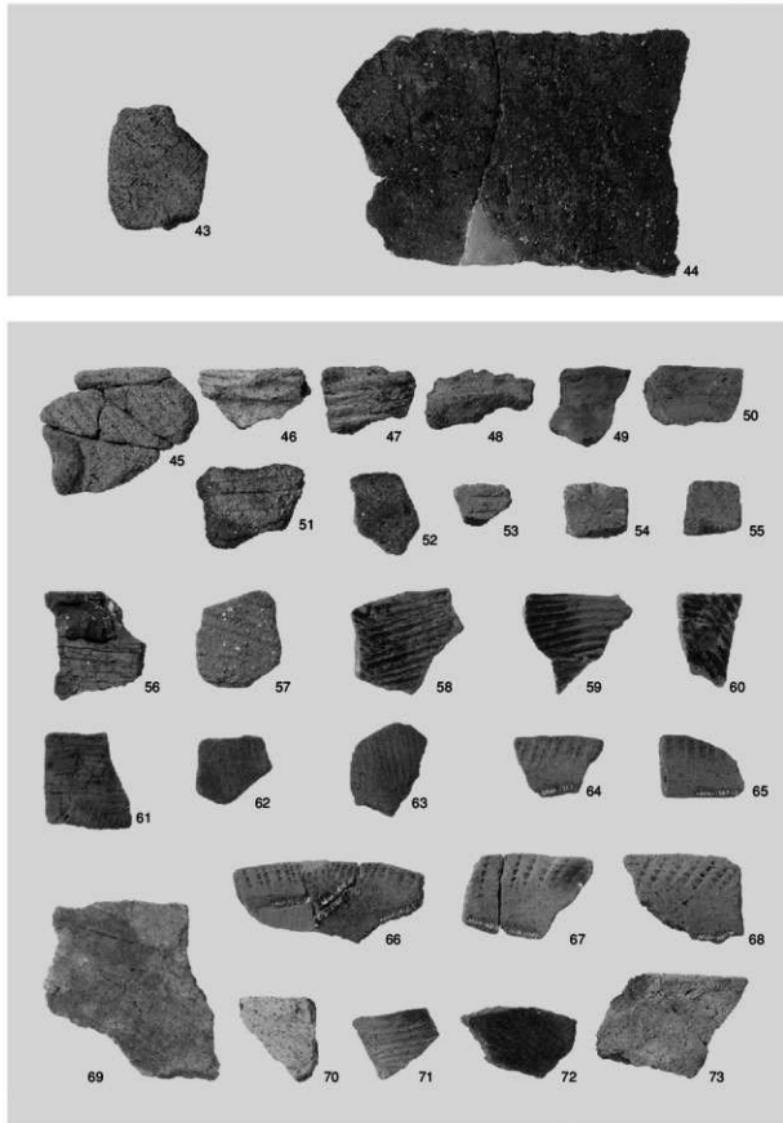


八幡前遺跡の遺構内出土遺物

図版 8

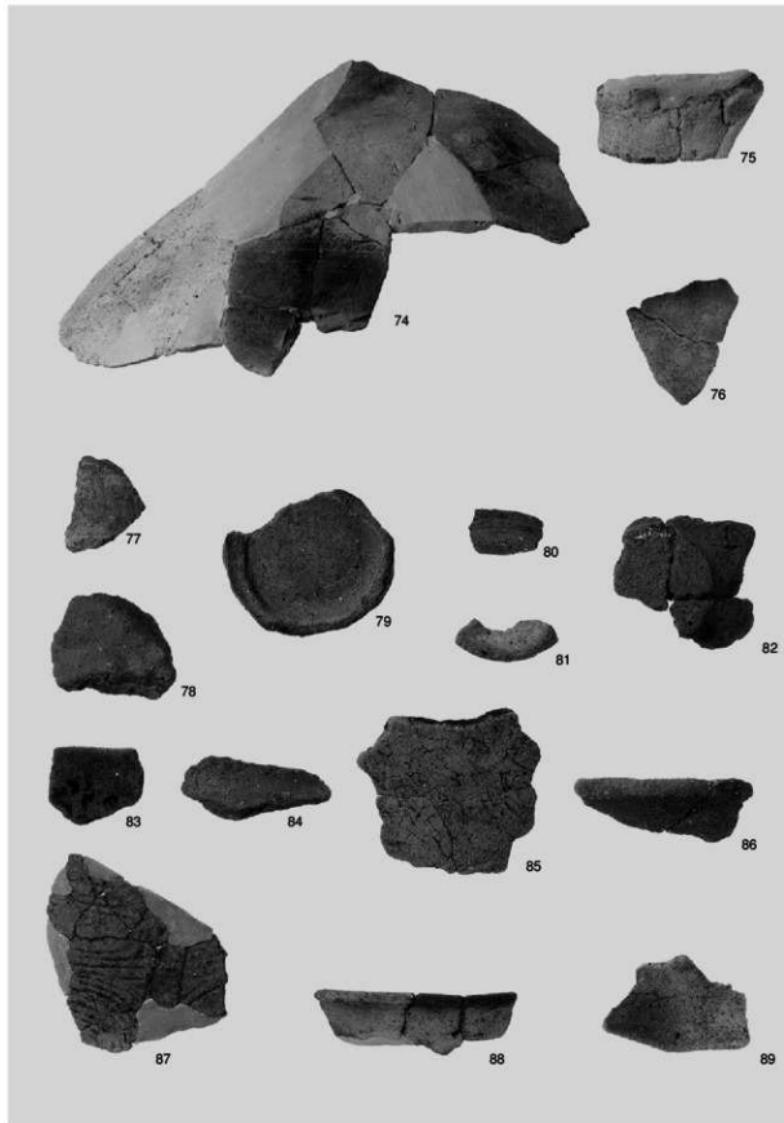


八幡前遺跡の遺構内出土遺物

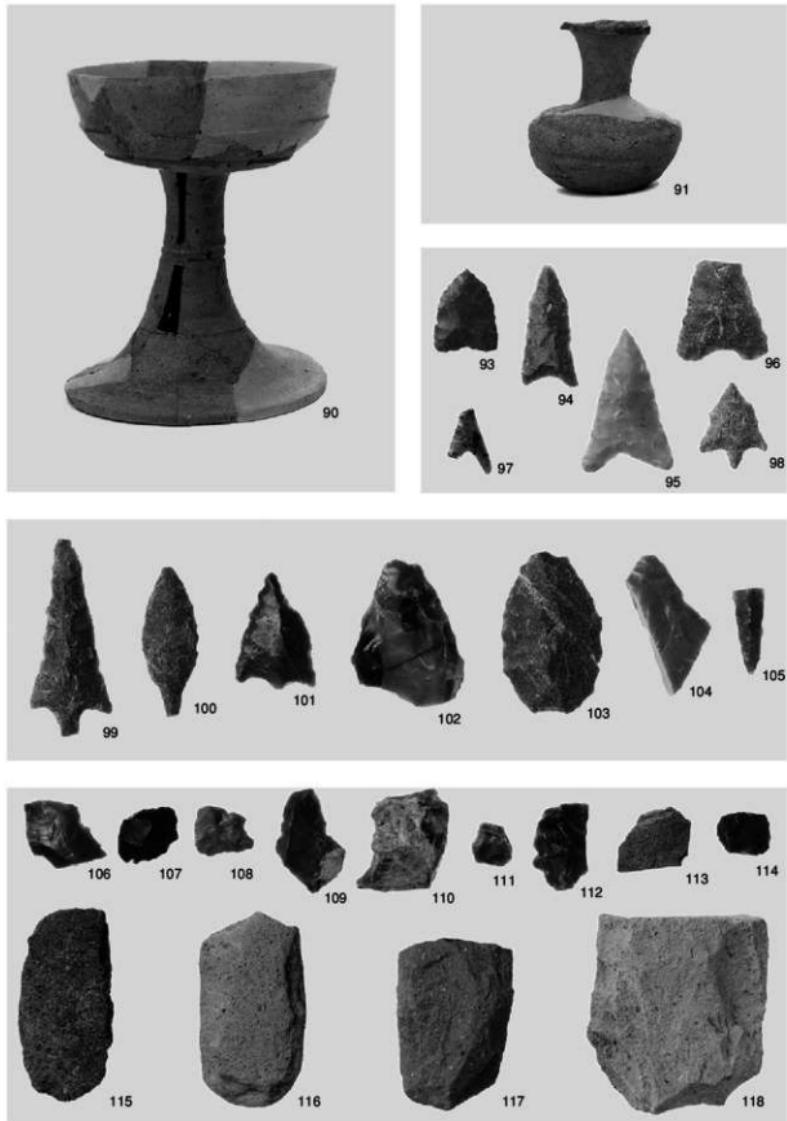


八幡前遺跡の遺構内出土遺物・包含層出土遺物

図版10

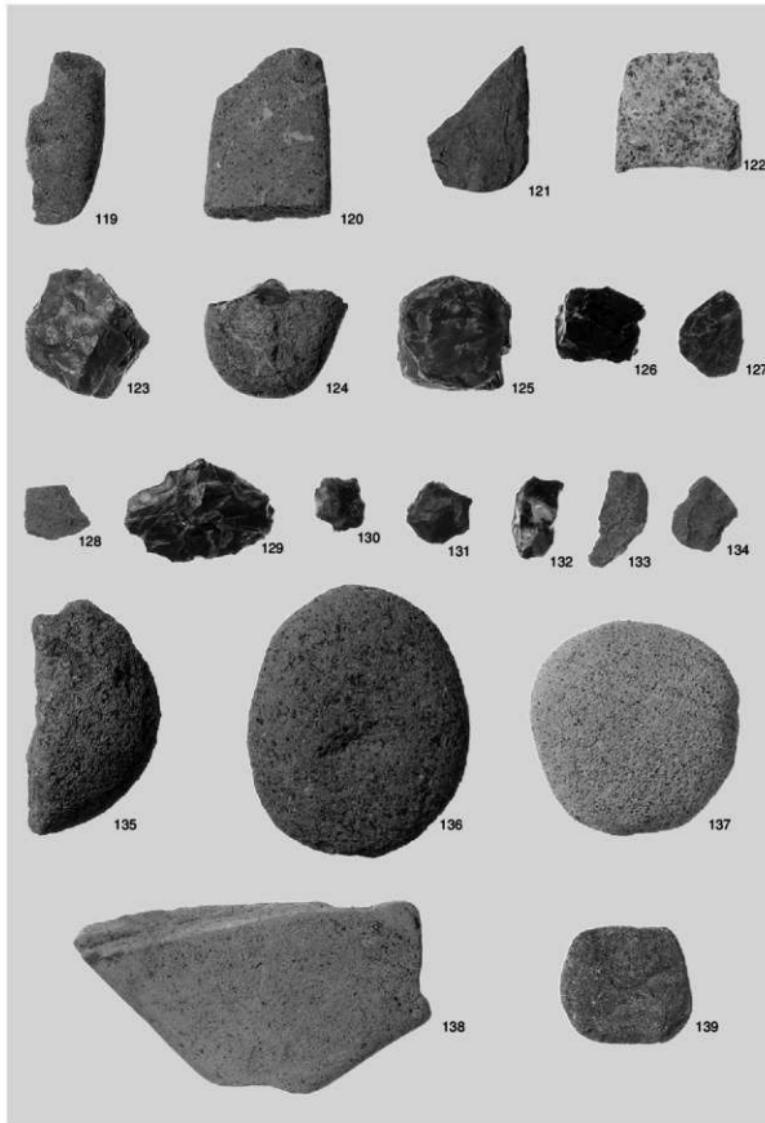


八幡前遺跡の包含層出土遺物



八幡前遺跡の包含層出土遺物

図版12



八幡前遺跡の包含層出土遺物



岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 第99集

八幡前遺跡・八幡前2号古墳

2006年3月1日

編集・発行 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

岐阜市三田洞1-26-1

印 刷 安藤印刷株式会社